

2026年10月2日(金)

日中投資促進機構
中国ビジネス
実務セミナー

中国のIT・新技術などを実体験を
通しながら超簡単に説明します。

中国ハイテク産業の

「深層」構造

—急成長産業とインフラ投資から見る中国市場の現在地

The logo consists of three concentric, curved lines in shades of blue and purple, resembling a stylized 'S' or a dynamic swirl.

華鐘諮詢

華鐘コンサルタントグループ
古林 将一

古林 将一（こばやし しょういち）

株式会社華鐘コンサルティング 代表取締役社長

華鐘新領域コンサルタント管理有限公司 董事長

上海華鐘コンサルタントグループ 副董事長



（経歴）

1994年日本大手損害保険会社に入社、大阪・名古屋・岐阜・東京で保険金支払いに関する業務などを経験後、本社能力開発部で社員教育や業務企画に従事。2012年に保険に関わる新事業開発のため中国上海に赴任し、上海汽車との業務提携を実現し現地子会社であるコンサルタント会社を設立。その後インドネシアのジャカルタ赴任を経た後退職、現在では日本のメディアでは報じられない中国現地でこそ得られる情報やハイテク関連の情報を中心に、最新情報を各種媒体やセミナーを通じて発信している。

株式会社華鐘コンサルティング
華鐘新領域（上海）コンサルタント管理有限公司
上海華鐘投資コンサルティング有限公司
上海華鐘コンサルタントサービス有限公司
上海華鐘国際貿易有限公司

Today's Agenda



1. 中国のハイテク政策とその「実行力」
2. AIを支える4つのインフラ（電力・算力・通信・DC）の日中比較
3. 中国AIモデルの性能とコスト競争力
4. AI応用の爆発的普及（自動運転・デジタル決済・スマート工場等）
5. データ共創の勝機

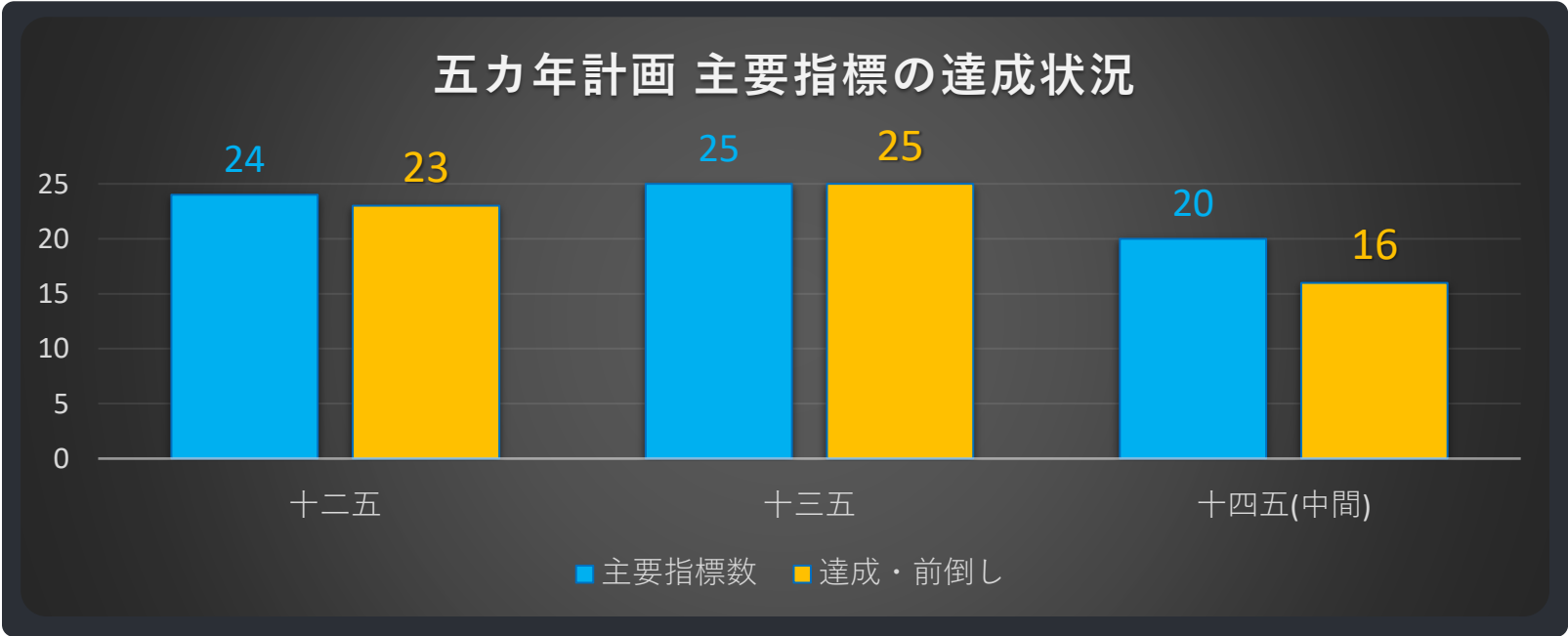
※ 各章とも、新华网・人民日报・国家能源局・工信部・赛迪研究院・高工机器人产业研究所など中国国内の公的・準公的ソースを中心に構成しています。



中国のハイテク政策とその「実行力」

政策の「実行力」は本物か — 過去20年・五カ年計画の達成実績

- 【国家発改委／全国人大】五カ年計画には2種類の指標。**約束性指標**（環境・資源＝人事考課に直結し必達）と**予期性指標**（経済成長＝努力目標）
- 【十二五(2011-15)】24の主要指標中**23を達成**。未達はR&D強度のみ（目標2.2%→実績2.1%）
- 【十三五(2016-20)】25指標が**期日通り実現、うち13は前倒し**（コロナ下でも）。予期性の一部は僅かに未達
- 【十四五(2021-25)】中間評価で16指標が予定通り/前倒し（最終年・進行中）



十三五：25 / 25

期日通り実現（うち13は前倒し）

※ 内訳

予期性（努力目標）の一部はコロナで僅かに未達。
一方、**約束性（必達）はほぼ100%達成**

データ：国家発改委「十三五规划纲要总括评估」／全国人大财经委 ※十四五は中間評価時点（進行中）。十二五・十三五は完了実績

「新質生産力」とは何か

- 定義：科学技術革新を核に、労働・資本の投入量ではなく**全要素生産性（TFP）**の飛躍で成長を生む、新しいタイプの生産力
- 2023年に提起 → 政府活動報告に「人工知能+」が**3年連続**、2026年は「**智能経済の新形態を打ち出す**」を初掲載
- 狙いは量的拡大から**質的发展（高質量发展）**への転換。数値目標と予算を伴う国家戦略

要素投入型からイノベーション駆動型への転換

旧来型の生産力

要素投入型

- ・ 労働力の大量投入
- ・ 資本の大量投入
- ・ 資源・エネルギーの消費

量的な拡大

転換

全要素
生産性の飛躍

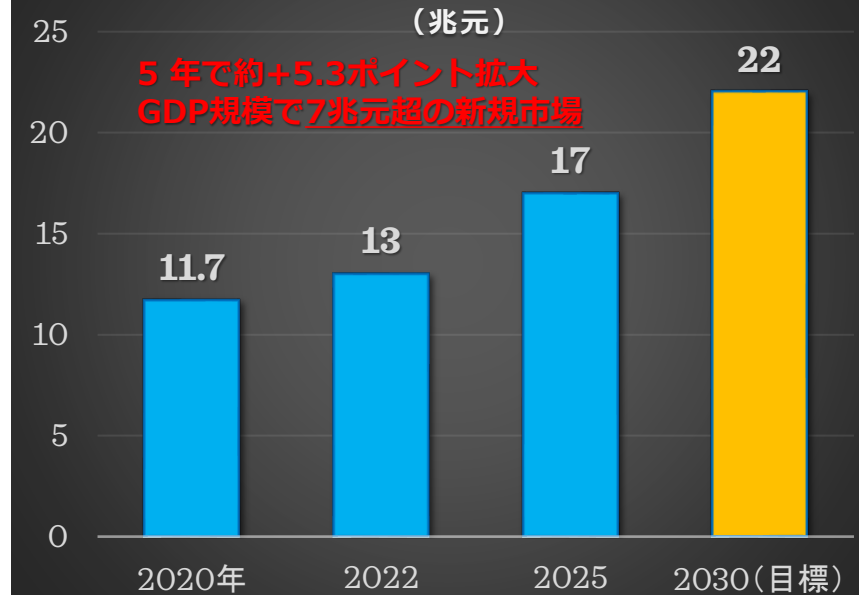
新質生産力

イノベーション駆動型

- ・ 科学技術革新（コア）
- ・ データ × AI
- ・ 高付加価値・高効率

質的な发展
(高質量发展)

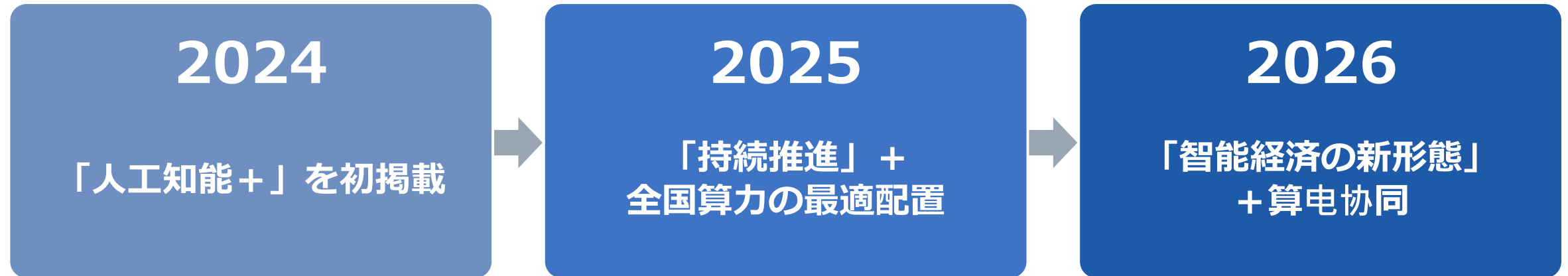
戦略的新興産業 GDP 比率推移



データ：中国政府活動報告（2024～2026年）／十五五規劃綱要 国务院《政府工作报告》（2024,2025）／国家发展改革委／国家信息中心／国家统计局《战略性新兴产业分类》

政策の最新到達点（2026政府活動報告＋十五五）

- 【2026政府活動報告／十五五綱要】「**智能經濟の新形態**」を初掲載、「**人工知能＋**」の深化、「**算電協同**」（算力×電力の協調）、「**5G＋工業インターネット**」升級版
- 十五五綱要は「**算力・算法・データの高効率供給の強化**」を明記
- 【国家データ局】AI特許は件数ベースで**世界の約6割** / 【工信部】AI中核産業**1.2兆元超・6,200社超**（2025）



AI特許（件数ベース）

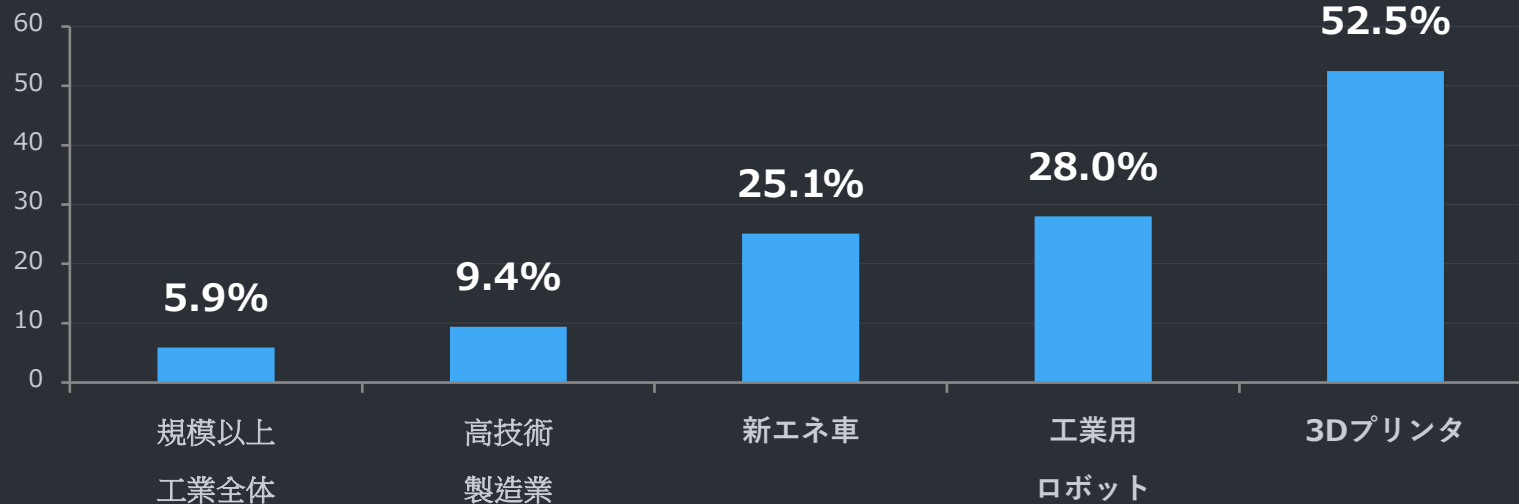
世界の約60%

AI中核産業（2025） **1.2兆元超・6,200社超**

高技術製造業の付加価値成長率

- 【国家統計局・2025年統計公報】高技術製造業の付加価値は**+9.4%**、規模以上工業（+5.9%）を**3.5ポイント上回る**。工業に占める比重は**17.1%**へ上昇
- 製品別：**3Dプリンタ +52.5%**、工業用ロボット +28.0%、新エネ車 +25.1%
- 装備製造業も +9.2%。工業全体が減速する中、高技術・装備が牽引

2025年 分野別の付加価値・生産成長率（前年比、%）



高技術製造業 **+9.4%**

工業全体(+5.9%)を3.5pt上回る

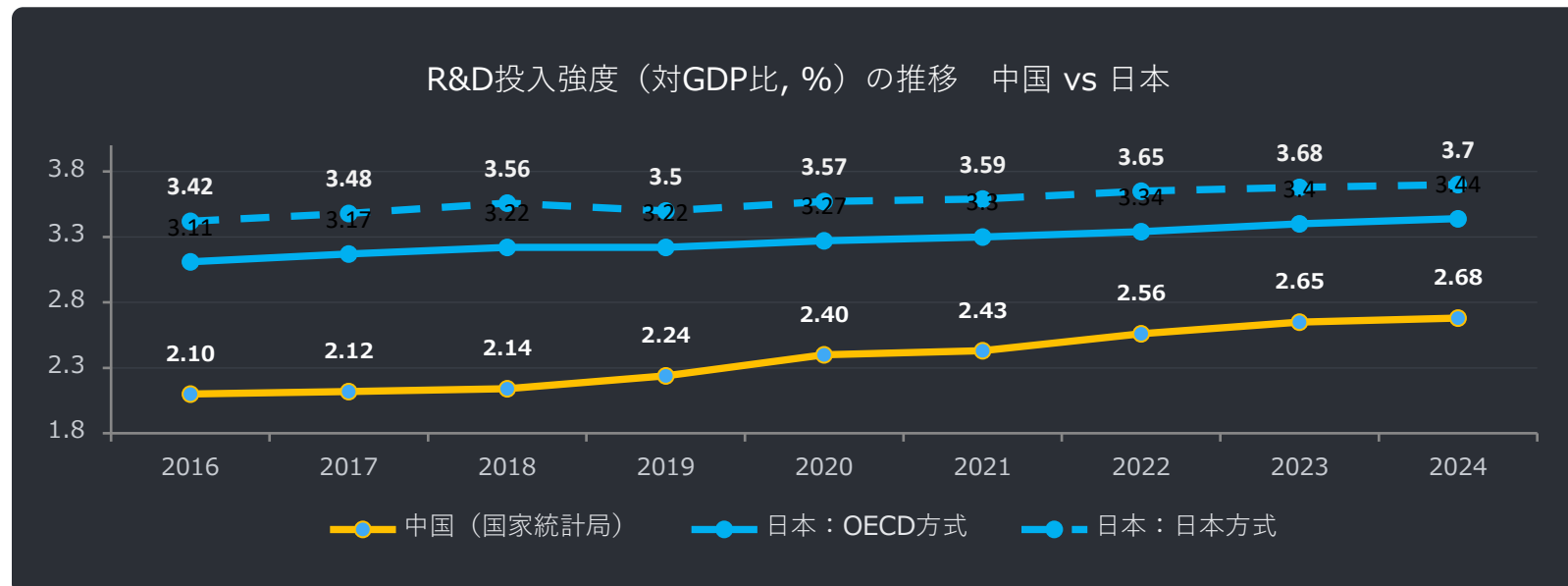
工業に占める比重

17.1% へ上昇

データ：国家統計局「2025年国民経済和社会发展統計公報」

R&D投資の推移とGDP比①

- 【国家統計局・2025】中国のR&D投入強度は**2.80%**（+0.1pt）。**初めてOECD平均（約2.7%）を突破。**
基礎研究費比率も**7.08%**へ
- 【総務省・2024年度】日本の研究費は**23.8兆円**（4年連続で過去最高）。対GDP比は**3.44%**（OECD方式）
／3.70%（日本方式）
- 公平な対比は**中国2.80% vs 日本3.44%**（OECD方式＝**黄の実線**）。差は約0.6ptまで縮小
- 強度は日本が上。ただし**伸び・絶対規模（名目で世界2位）・基礎研究の勢いは中国**



中国 2025: **2.80%**

初めてOECD平均（約2.7%）を突破

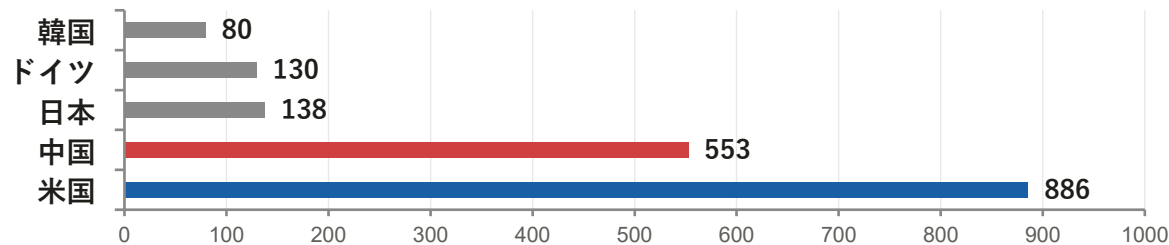
※（注）青の実線＝OECD方式（3.44%）
点線＝日本方式（3.70%）

データ：国家統計局／総務省「科学技術研究調査」2024年度 ※日本はOECD方式（実線）と日本方式（点線）を併記。

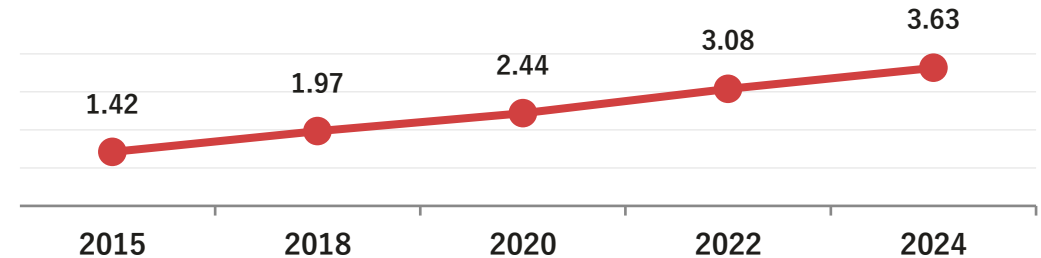
R&D投資の推移とGDP比②

- 【中国R&D投入は2024年3.6兆元・GDP比2.68%で米国に次ぐ世界2位、日本の研究開発費の約3.7倍規模
- 政策投入と市場拡大の二輪駆動で投資が継続拡大、3分野は世界覇権構築フェーズへと推移
- 新質生産力の戦略的新興産業はGDP比17%(2025目標)、関連企業200万社超で産業基盤が厚い構造
- GDP比17%は「戦略的新興産業の出荷額」、GDP比2.68%は「R&D全体」と別指標、混同を避ける

主要国R&D投入額対比（2024年・10億USD）



中国R&D投入の推移（兆元）



指標① R&D投入（研究開発費）

3.6兆元

2024年・前年比+8.6%

GDP比 2.68%

米国に次ぐ世界2位／日本の約3.7倍

指標② 戦略的新興産業GDP比

17%

2025年目標／2030年22%超見通し

関連企業200万社超

毎年1ポイント超で拡大／産業基盤が厚い

政策実行のスピード（実例）

- 中国の強みは「決めてから現場に落とす速さ」。政策の達成が人事考課に直結するため実装が速い
- 実例①【人工知能＋意見(2025.8)】2027／2030／2035の三段階目標を一括設定
- 実例②【5G】商用化からわずか6年で483万局／実例③【東数西算】全国8拠点を国家主導で一斉始動
- 日本＝審議・合意形成に時間／中国＝目標設定と実装が同時進行。「掲げるだけ」ではない

2025.8

三段階目標を即設定

「人工知能＋」意見で
2027／2030／2035の
数値目標を一括設定

6年

5G基地局を積み上げ

商用化から6年で
483万局（世界最多）

国家主導

東数西算を一斉始動

全国8拠点を
同時に立ち上げ
電力×算力を一体設計

要点： 「計画を掲げるだけ」ではなく、達成を強制する仕組み（約束性指標×人事考課）が実行スピードを生む

セクション1 まとめ

- 中国の政策は「スローガン」から「**数値目標＋予算＋実行＋人事考課**」へ
- 高技術（+9.4%）・R&D（2.80%）・算力と、政策が**実体経済の数値に表れている**
- 問うべきは「**どの国家目標に、日本の強みがかみ合うか**」（脅威の列挙ではない）

仕組み

約束性指標×人事考課
＝達成を強制する構造

実績

五カ年計画をほぼ達成
政策が数値に直結

視点

競争相手であり
巨大な実装テスト市場

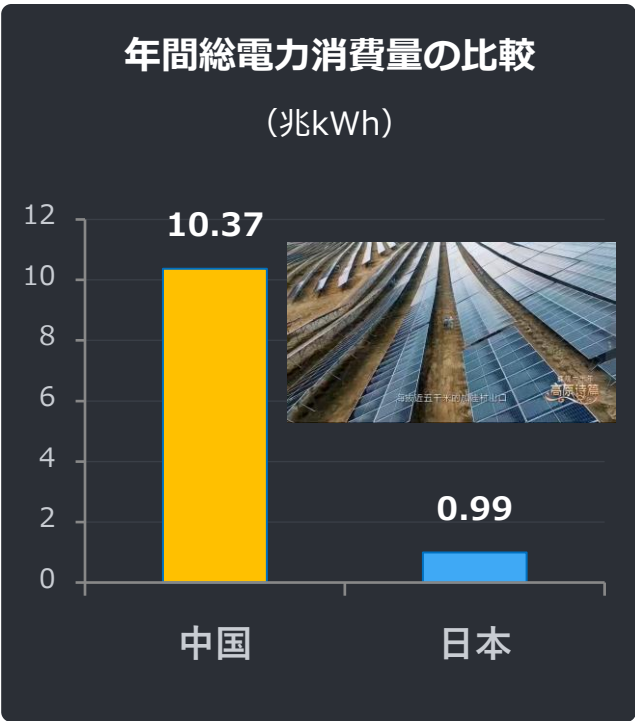
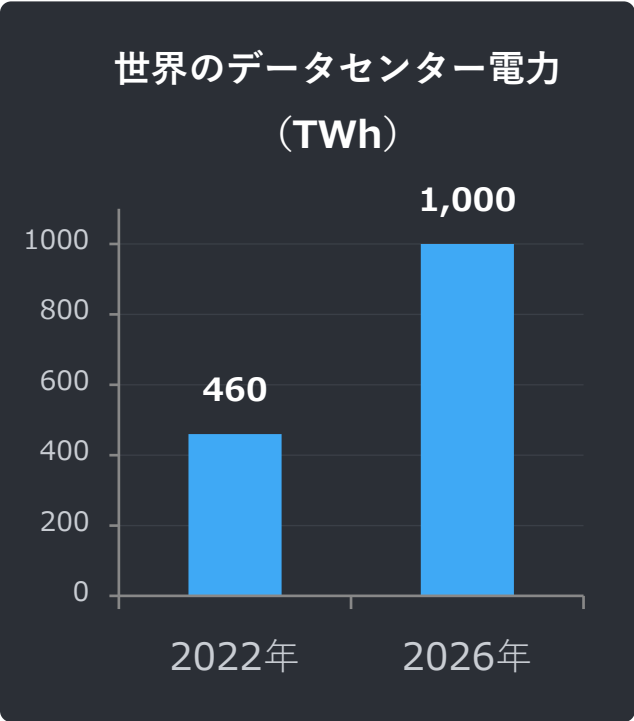
次章 → それを支える4つのインフラ（電力・算力・通信・データセンター）を日中比較



AIを支える4つのインフラ (電力・算力・通信・DC) の日中比較

電力① AIとEVが突きつける「電力需要」の現実

- 【AI】 ChatGPT1回の質問は検索の**約10倍の電力**（諸説）。消費の**8～9割は推論（日常利用）**
- 【AI】 世界のデータセンター電力は460TWh(2022)→**約1,000TWh(2026)**=日本の年間総電力量に匹敵（IEA）
- 【EV】 労働節初日、高速道路上のEV充電だけで**23 GWh(+55.6%)**=日本の原発**ほぼ1基の1日分**
- 【中国】 2025年の総電力消費**10.37兆kWh**で世界初の10兆超（EU+ロシア+インド+日本の合計超）



【EV】 五一初日の高速道路充電

23 GWh

≡ 日本の原発 約1基の1日分

労働節期間 新エネルギー車 1日流通量

1,540万 台 / 日

≡ 前年比 +33 %

高速道路を1日で動く新エネ車の数

【中国】 2025年の総電力消費

10.37兆kWh

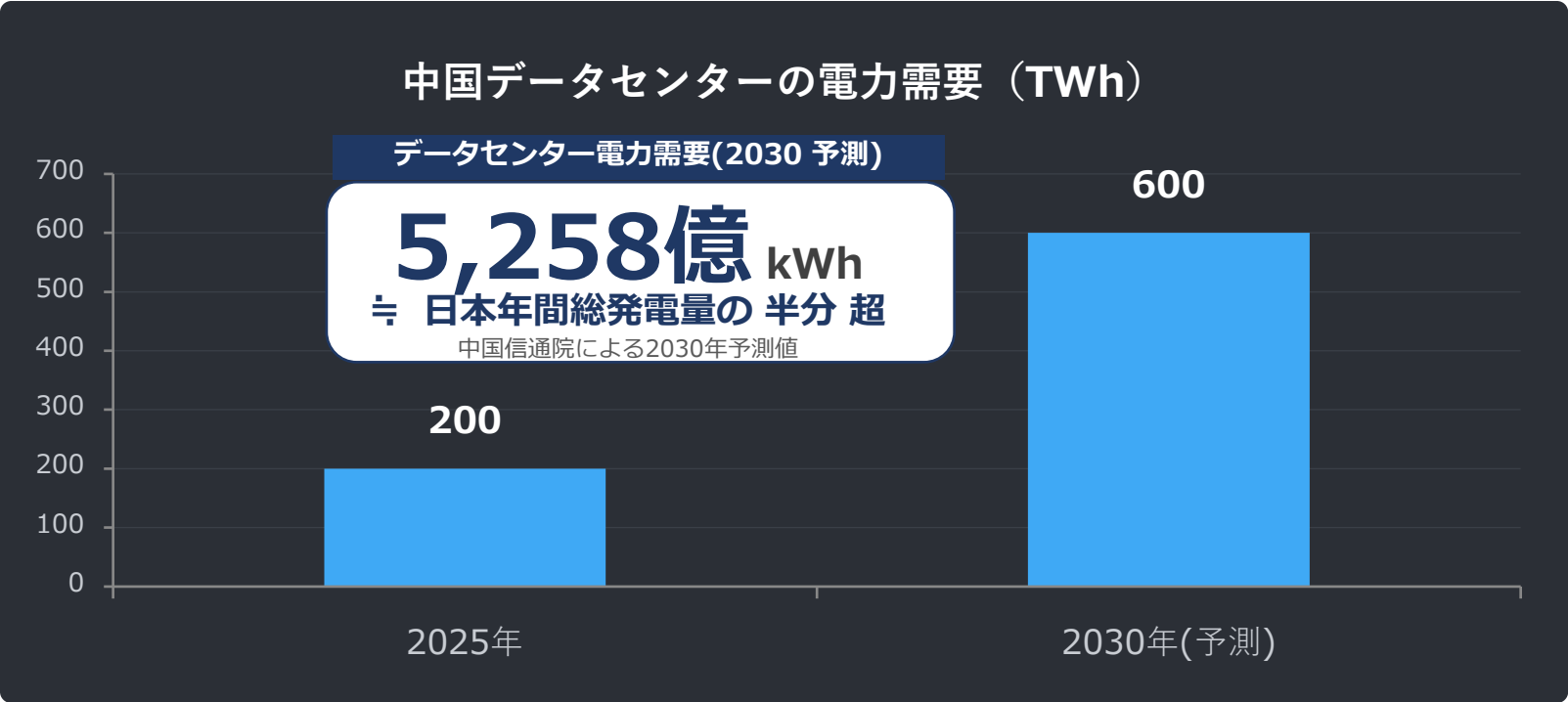
(世界初の10兆超)

※ AIの電力使用量は諸説あり、正確な数値は検証が難しい

データ：IEA「Energy and AI」（世界DC電力）／国家能源局（中国総電力）／資源エネルギー庁（日本の原子力）

電力② データセンター電力需要の急増

- 【中国】 DC電力は全国の約**2.4%（2025）→2030年は4.8%**、年率約20%で増。ゴールドマン試算：約**200→600 TWh（2030）**
- 【日本】 OCCTOが2024年に**初めて電力需要を上方修正**。電中研の2050年DC需要は最大約2兆kWh
- PUE規制：中国は大型で2025年<1.25／十五五<1.2、日本は2030年度<1.4



全国電力に占めるDC比率

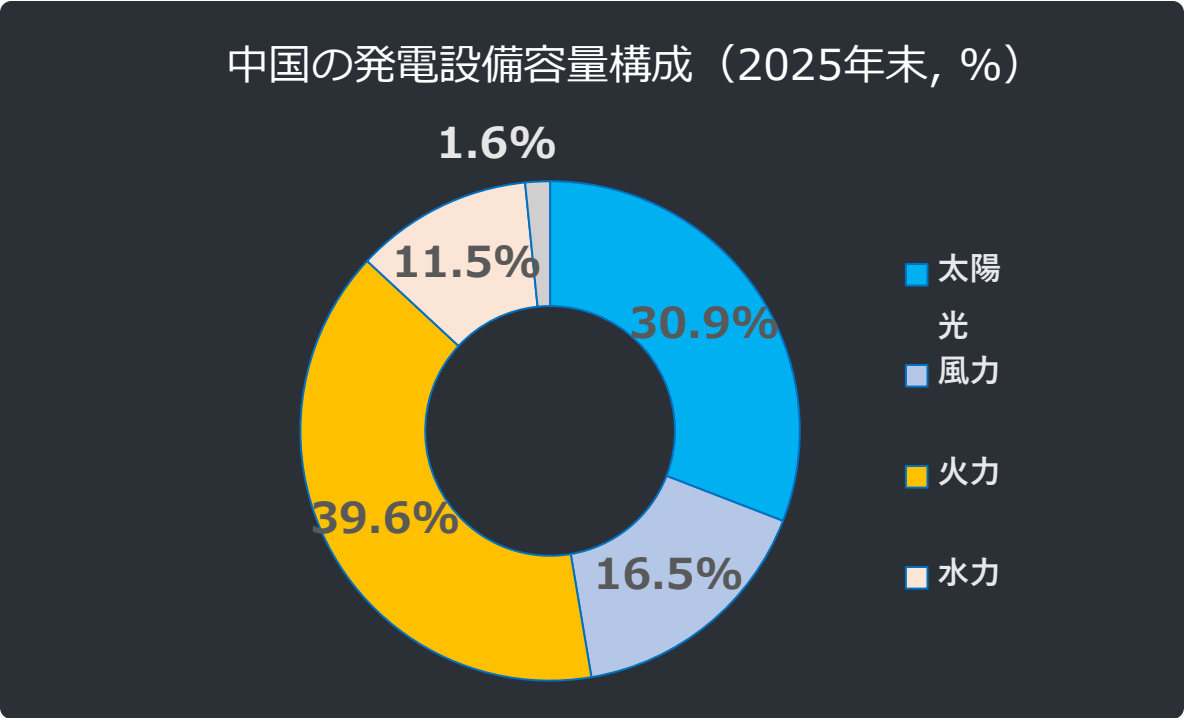
2.4% → 4.8%
 2025 → 2030（約2倍）

※ 日本：OCCTOが2024年に初の上
 方修正。電中研2050年DC需要は
 0.43兆～2.1兆kWhと最大約5倍の幅

データ：中国＝国家能源局／中電聯・ゴールドマン試算 日本＝電力広域的運営推進機関(OCCTO)・電力中央研究所・資源エネルギー庁

電力③ 電源構成 — 風力・太陽光が火力を追い越した

- 【国家能源局】 2025年末、風力6.4億kW + 太陽光12.0億kW = 計18.4億kWが全発電設備の**47.3%**を占め、
史上初めて火力を追い越した
- 原子力は運転中58基（6,096万kW） 建設中44基（5,235万kW） = 総規模102基・1.13億kWで世界一
- 風光の発電量だけで、日本の総発電量（約0.99兆kWh）の約2.3倍



風力47.4% > 火力39.6%

風力 + 太陽光の発電量
2.3兆kWh = 日本の総発電量の約2.3倍

原子力：拡大の途上
 運転中58基（6,096万kW）
 建設中44基（5,235万kW） = 在建18年連続世界一
 総規模102基・1.13億kWで世界一（発電比率は約5%）

データ：国家能源局／国家統計局「2025年統計公報」／資源エネルギー庁

算力① 算力とは何か — AIを動かす「動力」

- 算力（コンピューティングパワー） = **AIが計算する力**。単位はFLOPS（1秒あたりの演算回数）、EFLOPS = 1秒間に100京回
- たとえるなら **電力 = 「工場を動かす力」** / **算力 = 「AIを動かす力」**
- データ（原料） × 算力（動力） × モデル（設計図） でAIができる → だから国家が電力とセットで管理（**算电协同**）

電力の世界



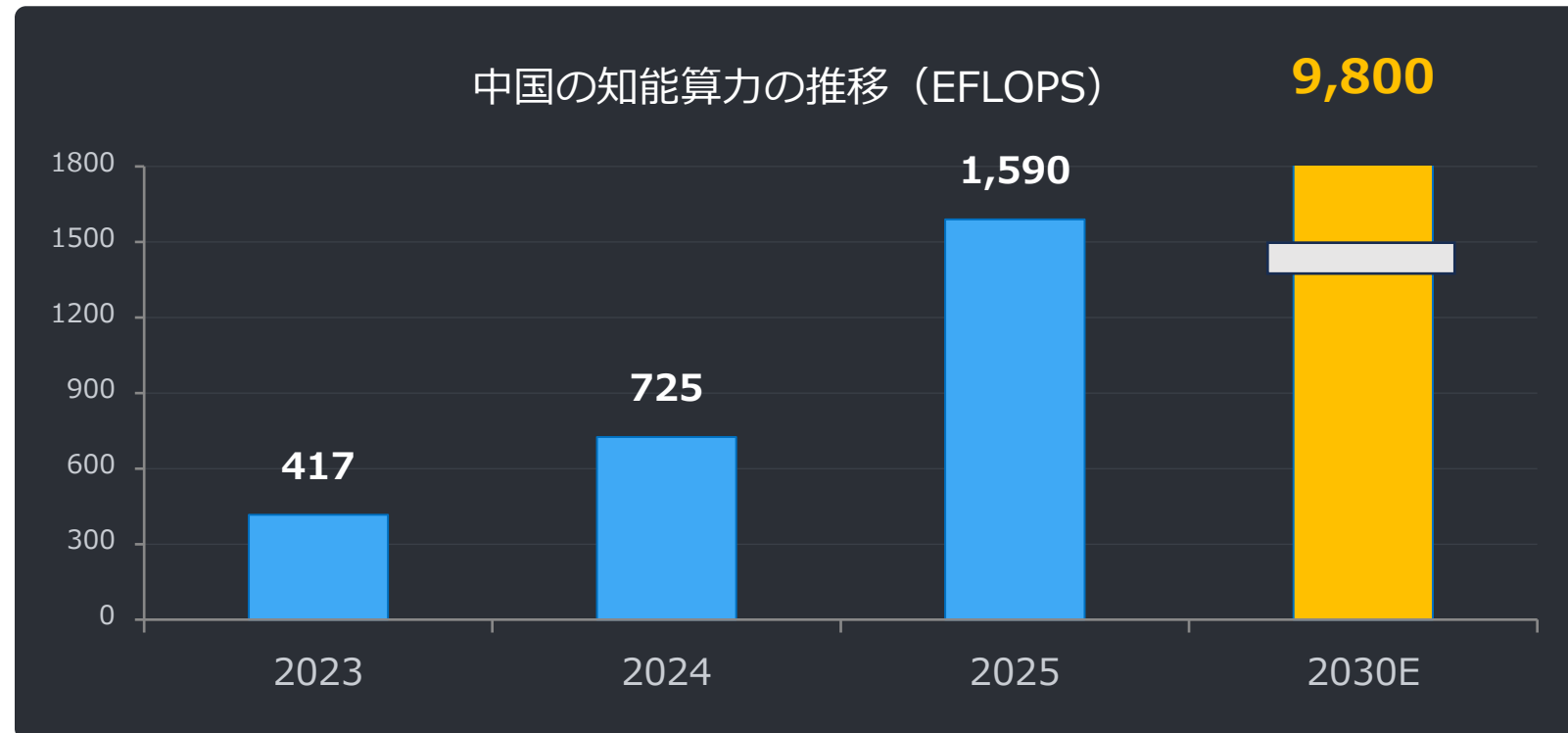
算力の世界



同じ「インフラ」の発想 → だから中国は電力と算力を一体で国家管理する（算电协同）

算力② 中国の算力規模の推移

- 【工信部】 知能算力は2023年416.7 → 2024年725.3 → **2025年1,590 EFLOPS超**（2年で約4倍）
総算力は米国に次ぐ世界2位。国産チップ（昇騰／Ascend）の量産＋アルゴリズム最適化で算力ギャップを縮小
- 1万GPU級の**万卡智算クラスターは42基**
- 十五五目標：**2030年に9,800 EFLOPS（2025年の約6.2倍）**



十五五目標 2030年

9,800 EFLOPS

2025年（1,590）の約6.2倍

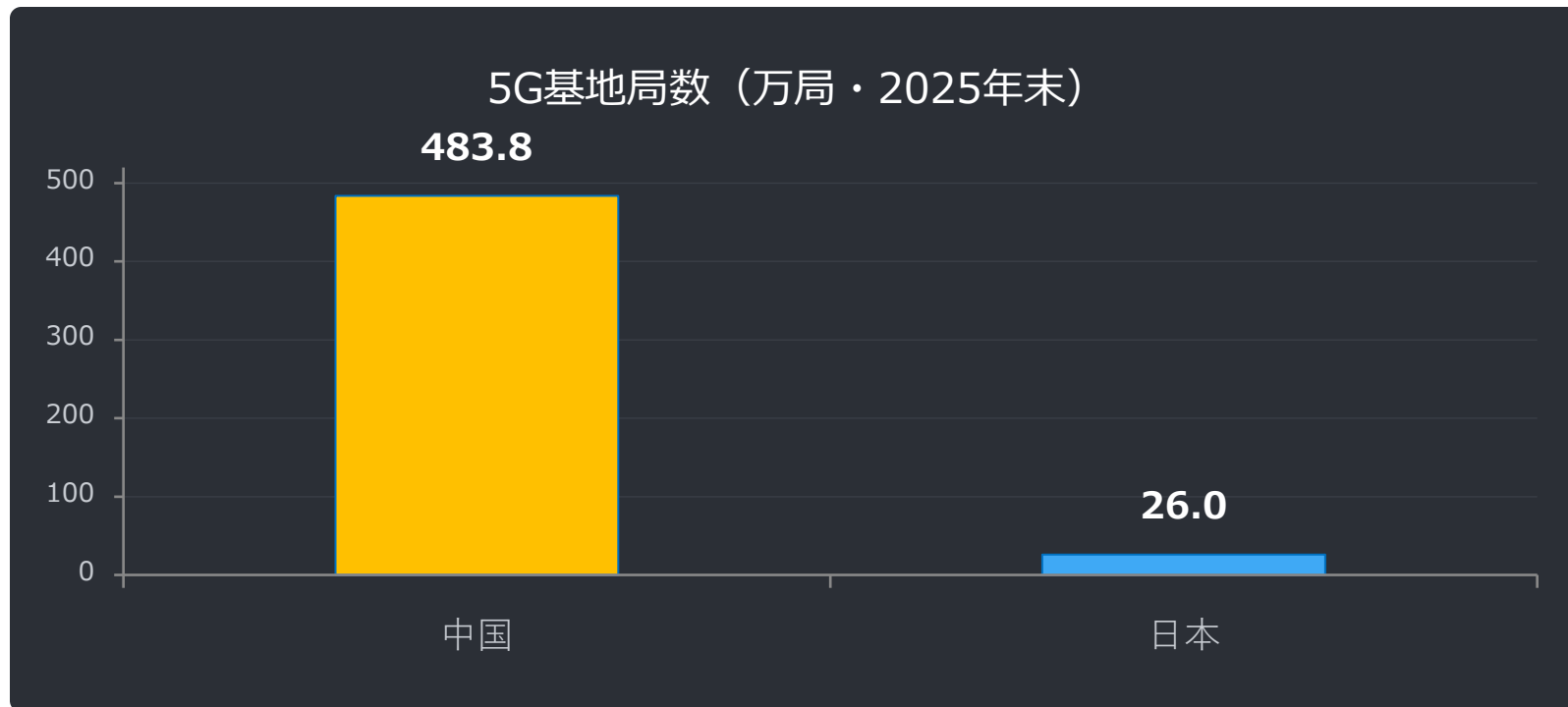
日本
EFLOPS建ての公式統計 なし
公的算力基盤(GENIAC等)
AI向けGPU・スパコンTOP500

※ 計測基準に注意：工信部1,590 EFLOPS と、国家データ局のFP16建て（約2,450 EFLOPS）は基準が異なる

データ：工業情報化部／十五五規劃

通信① 5G整備の量的比較

- 【工信部】中国の5G基地局は**483.8万局（2025年末）**、1万人あたり34.4局、5G利用者**12.04億人**
- 【総務省】日本は**26万局**
- ただし**計数定義が異なる**（中国＝3セクター＝3局・都市高密度／日本＝特定基地局・4G転用含む）。
単純な18倍比較は不正確



中国の5G利用者

12.04億人

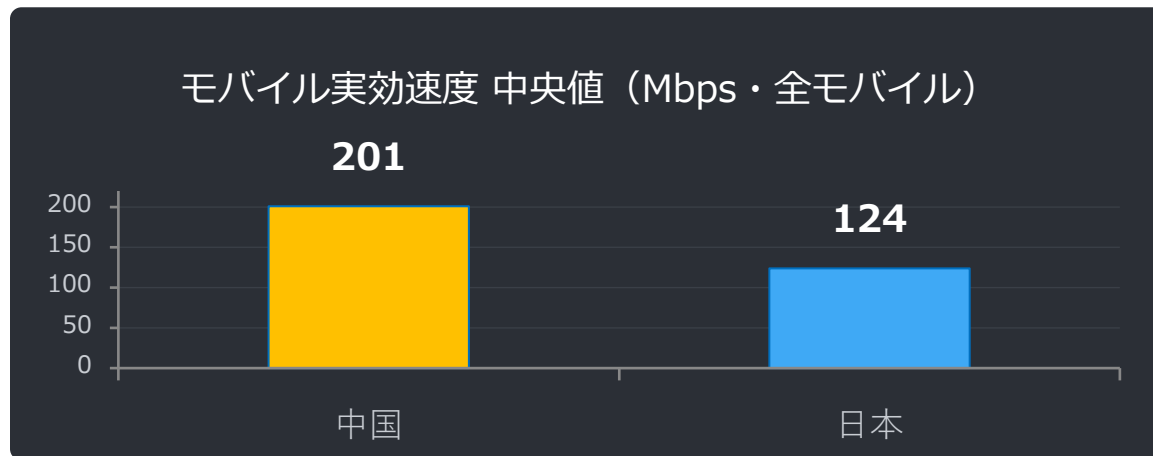
1万人あたり34.4局

※ 数え方が違うため単純比較は禁物。
万人当たり・人口カバー率・
「面」で見る必要あり

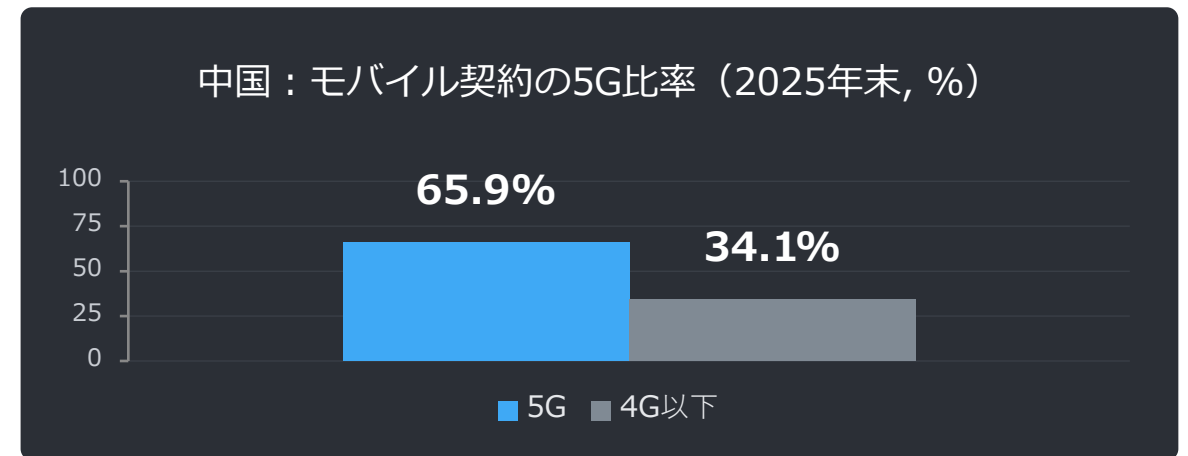
データ：工業情報化部／総務省

通信② 品質の実像 — 実効速度と「5Gの中身」

- 【Ookla・2025】実効速度（全モバイル中央値）は**中国 約201 Mbps／日本 約124 Mbps＝中国は約1.6倍**（日本の5G限定でも約150 Mbps）
- 日本の5Gは**NSA主流**。SA対応基地局は50.7%（総務省）だが実利用は低く差大：SB95.6%／au36.9%／docomo27.1%／**楽天0%**
- 4G転用の「**仮想5G**」は速度が4Gとほぼ同じ（SAはNSAの約1.7倍）
- 対して中国は**5G回線65.9%**、すでに**5G-A（5.5G）へ：330+都市・5G基地局の42.7%がRedCap対応**



※ 日本＝SA対応50.7%でも実質NSA主流（楽天0%）。4G転用は速度が出ない



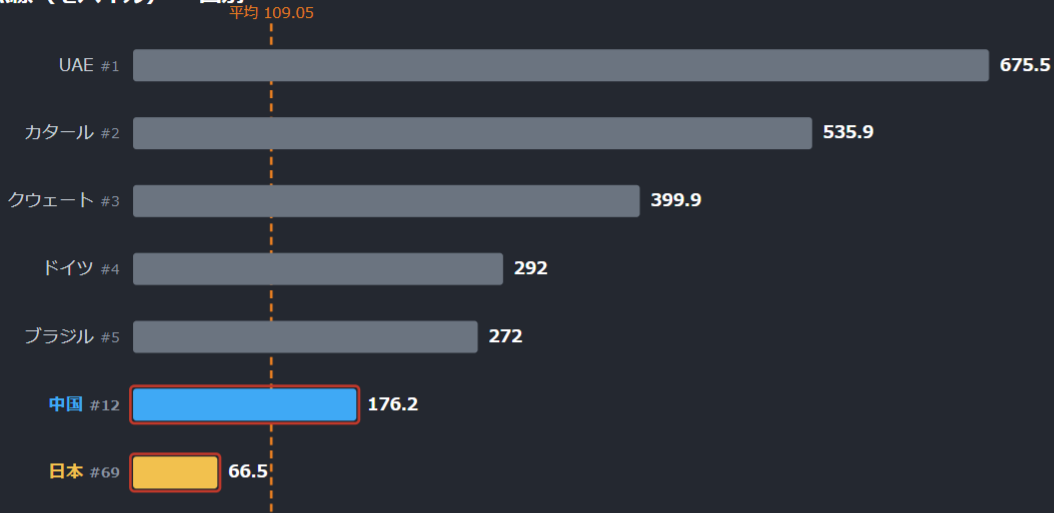
中国は**5G-A（5.5G）へ：330+都市をカバー／5G基地局の42.7%がRedCap対応**

データ：Ookla Speedtest Global Index（2025）／Opensignal（日本5G）／総務省 令和7年度電波利用状況調査（SA）
／工業情報化部 2025年通信業統計公報（5G・5G-A/RedCap）

通信速度の国際比較 — 固定回線・無線（モバイル）／国別・都市別

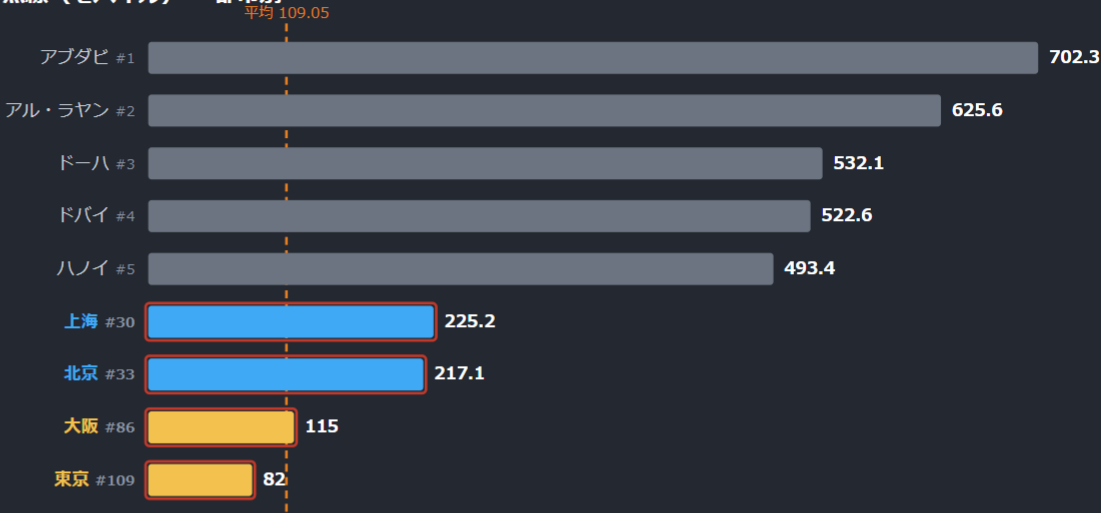
他国/他都市 Top5 中国 日本 ----- 世界平均（中央値）：モバイル 109 / 固定 130 Mbps

① 無線（モバイル）－ 国別



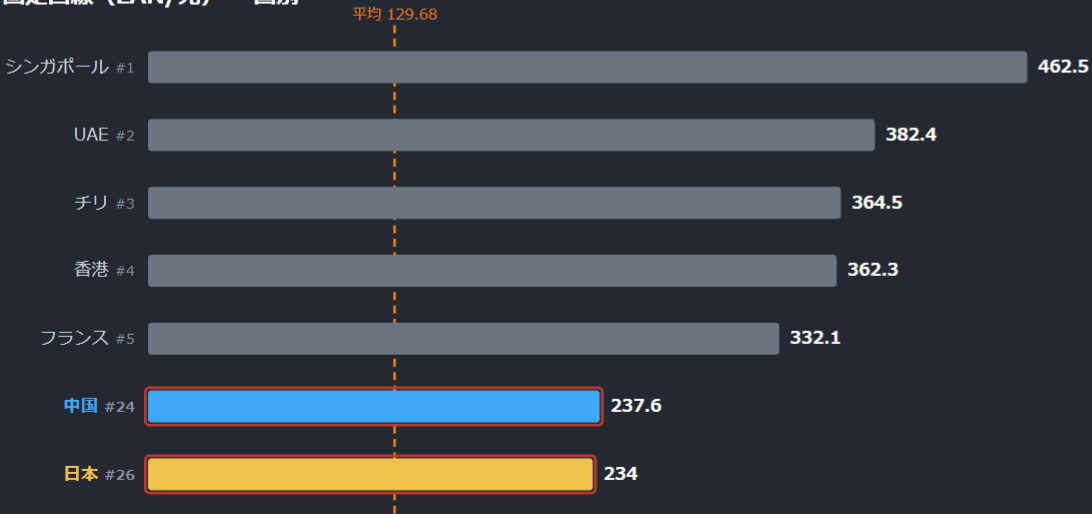
中央値ダウンロード（Mbps）

② 無線（モバイル）－ 都市別



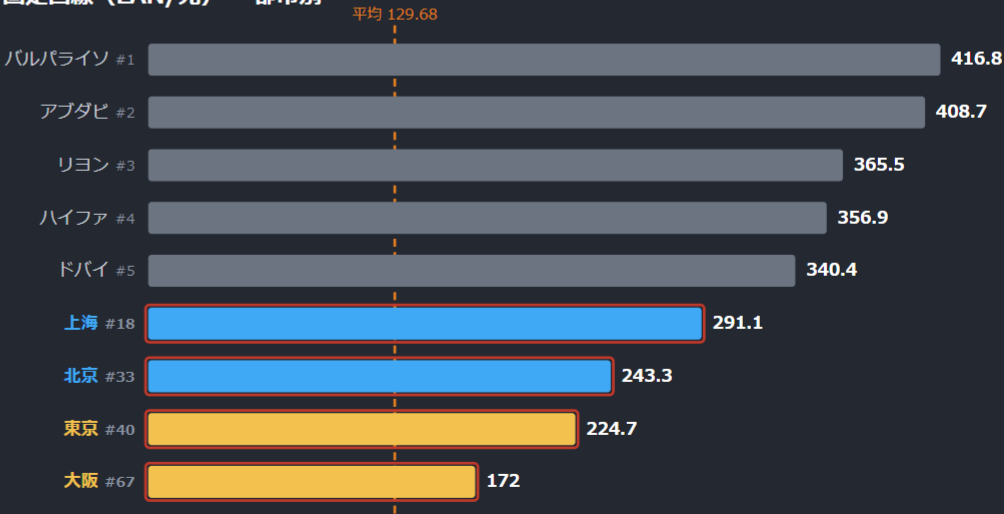
中央値ダウンロード（Mbps）

③ 固定回線（LAN/光）－ 国別



中央値ダウンロード（Mbps）

④ 固定回線（LAN/光）－ 都市別



中央値ダウンロード（Mbps）

出典：Ookla「Speedtest Global Index」中央値ダウンロード速度（2026年8月更新／直近四半期）。対象：国=モバイル102・固定149、都市=モバイル149・固定194。都市データにOoklaが個別収録するのは中国=上海・北京、日本=東京・大阪のみ。

通信③ 帯域という「土台」ー カバレッジの落とし穴と衛星依存

- 【工信部・2023】中国は世界に先駆け**6GHz帯（700MHz幅）をモバイル(IMT)に割当**+ ミリ波も確保
／ 【総務省】日本は同じ帯を**Wi-Fiに割当**
- 帯域不足の日本はミリ波(狭カバー)と4G転用で補う→**NSAが多く速度も出にくい**（P17の中身に直結）
- 人口カバー率99.9%超でも**国土カバー率は約6割**。5G人口カバー率98%台も**「面」では地方に空白**
- 残り約4割を衛星直接通信で：au（2025.4・日本初）／ドコモ・SB（2026）／楽天×AST（ただし低速）

6GHz帯（優良な中周波数帯）の行き先

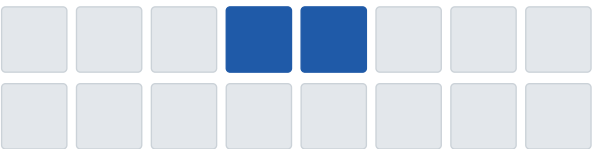
中国

モバイル（5G/6G）に割当 = 面と容量を両立

日本

Wi-Fi（免許不要）に割当 = モバイルには回さず

→ 中国は「一等地」をモバイルに確保、日本はミリ波（狭カバー）+4G転用で補う



■都市=カバー（面は小）／□地方=空白（面は大）

日本のカバレッジ

人口カバー率 **99.9%**

国土カバー率 **約60%**

→ 残り約40%を**衛星直接通信**で補う

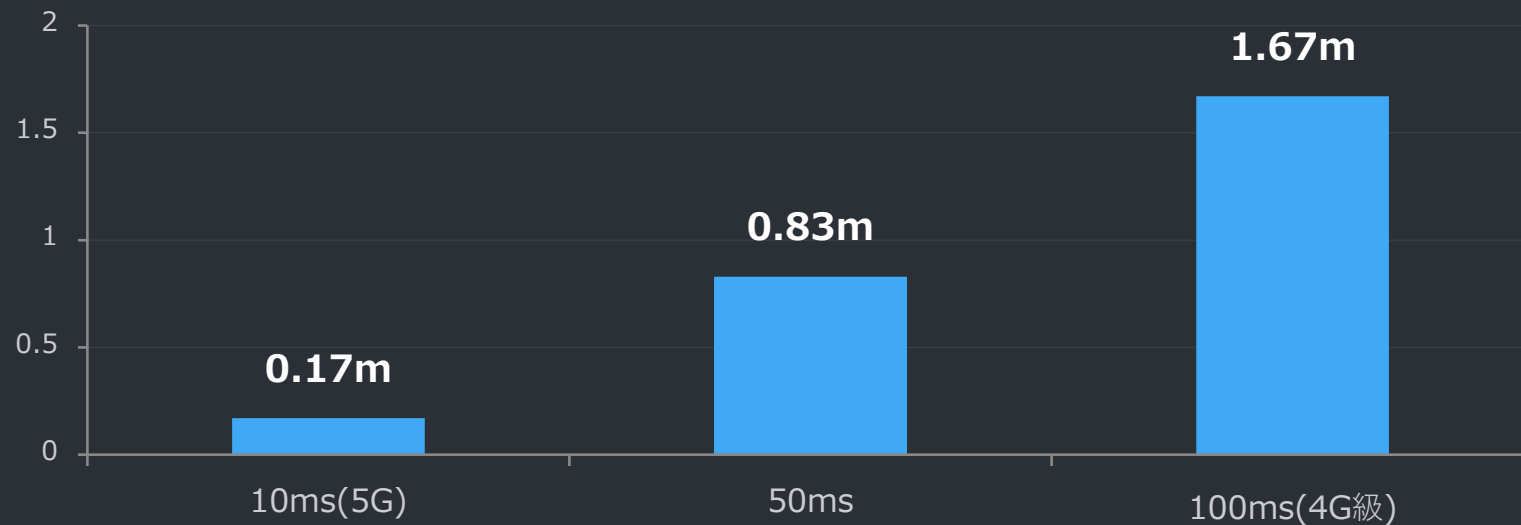
au 2025.4（日本初）／ドコモ・SB 2026／楽天×AST
※現状はテキスト中心で低速

データ：工業情報化部（工信部令第62号）／総務省（周波数再編アクションプラン・電波利用状況調査）／KDDI

通信④ 低遅延が「面」で効く — 自動運転という到達点

- 効くのは「速さ」より**遅延（レイテンシ）と途切れなさ**。時速60km = 秒速16.7m
- 遅延100msで**1.7m進む**（ブレーキ判断の1.7mは事故の分かれ目）。5Gは1ms級、4Gは数十ms
- 車路協調（V2X）で**見えない先の危険を事前共有**。ただし「面で切れない」ことが大前提

通信遅延と「進む距離」（時速60kmの場合, m）



遅延100ms（4G級） =

1.7m

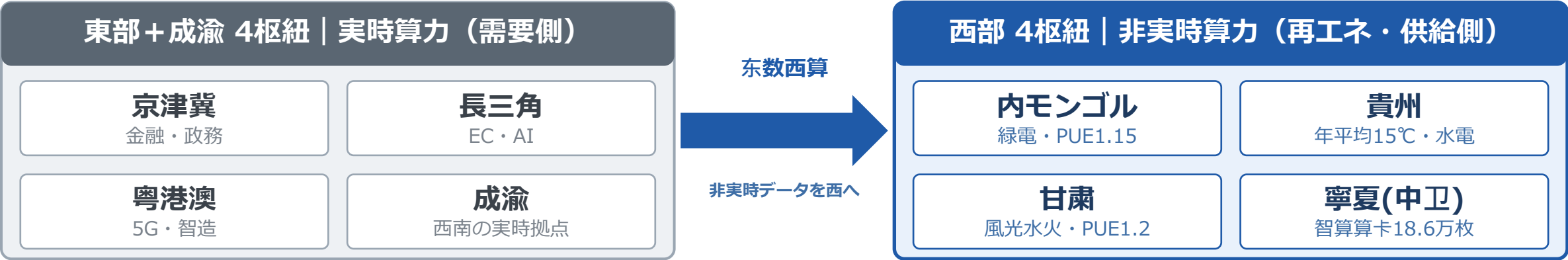
自動運転には応答速度が大きく影響

※ 自動運転・介護ロボット・ドローンが要るのは地方の「面」。中国は郷・鎮・行政村まで5Gを展開

データ：ITU-R／3GPP（5G要件）／総務省「デジタルライフライン全国総合整備計画」

データセンター「東数西算」国家プロジェクト

- 2022年2月始動の国家戦略（「西電東送」等続く跨地域の資源再配置）。
8大算力樞紐 + 10大クラスター・東中西14省を力バー
- 【役割分担】 **東部 + 成渝の4樞紐 = 実時（低遅延）算力 = 需要側** /
西部の4樞紐 = 非実時（後台・離線・保存）を再エネで = 供給側
- 十四五で**社会投資1兆元超**、算力総規模は**年均+約30%**、8樞紐で**全国の智算の約80%**を供給
- 樞紐間**20ms遅延圏**を実現、新設DCの**PUEは最低1.04**、西部は緑電比率が大幅上昇



1兆元超 社会投資(十四五)	約80% 全国の智算を供給	20ms 樞紐間の遅延圏	1.04 新設DCの最低PUE	+約30% 算力総規模の年均成長
--------------------------	-------------------------	------------------------	---------------------------	----------------------------

データ：国家發展改革委員会・国家データ局「東数西算」（8大樞紐＝京津冀/長三角/粤港澳/成渝＋内蒙古/貴州/甘肅/寧夏、10大集群）／新華社系報道（投資・算力・PUE等の進捗）

セクション2 まとめ — インフラの「非対称」

- 規模と普及速度は**中国が圧倒**（電力・算力・5Gの量）
- 質・先端の集積は**米国**（先端AI用DCは他国の10倍超、先端GPUは規制下で中国は国産化途上）
- 日本は「規模」で追う土俵にいない → **規模競争ではなく「面・現場・信頼」で入る**

中国

規模・普及速度
電力10兆kWh／算力1590E
5G 483万局

米国

質・先端の集積
先端AI用DCは他国の10倍超
巨額投資

日本

面・現場・信頼
実測データの質
規模では追わない

結論 → 日本は規模競争ではなく「面・現場・信頼」で中国市場に入る



中国AIモデルの性能とコスト競争力

中国AI産業の全体像

- 【工信部2025】AI中核産業**1.2兆元超・企業6,200社超**。政策×資本×応用が同時進行
- 基盤（チップ・算力・データ）→技術（大モデル）→応用（自動運転・決済・工場・医療）の**三層**
- 裾野も巨大：AI原生アプリのMAUは**豆包2.26億・DeepSeek1.35億**など億級が林立
- AI特許は件数で**世界の約6割**（国家データ局）。十五五末に産業規模**10兆元突破の見込み**

応用層

自動運転・デジタル決済・スマート工場・医療/養老

1.2兆元 AI中核産業(2025)

技術層（大モデル）

DeepSeek・Qwen(アリババ)・GLM(智譜)・豆包(字節)・Kimi

6,200社超 関連企業

基盤層

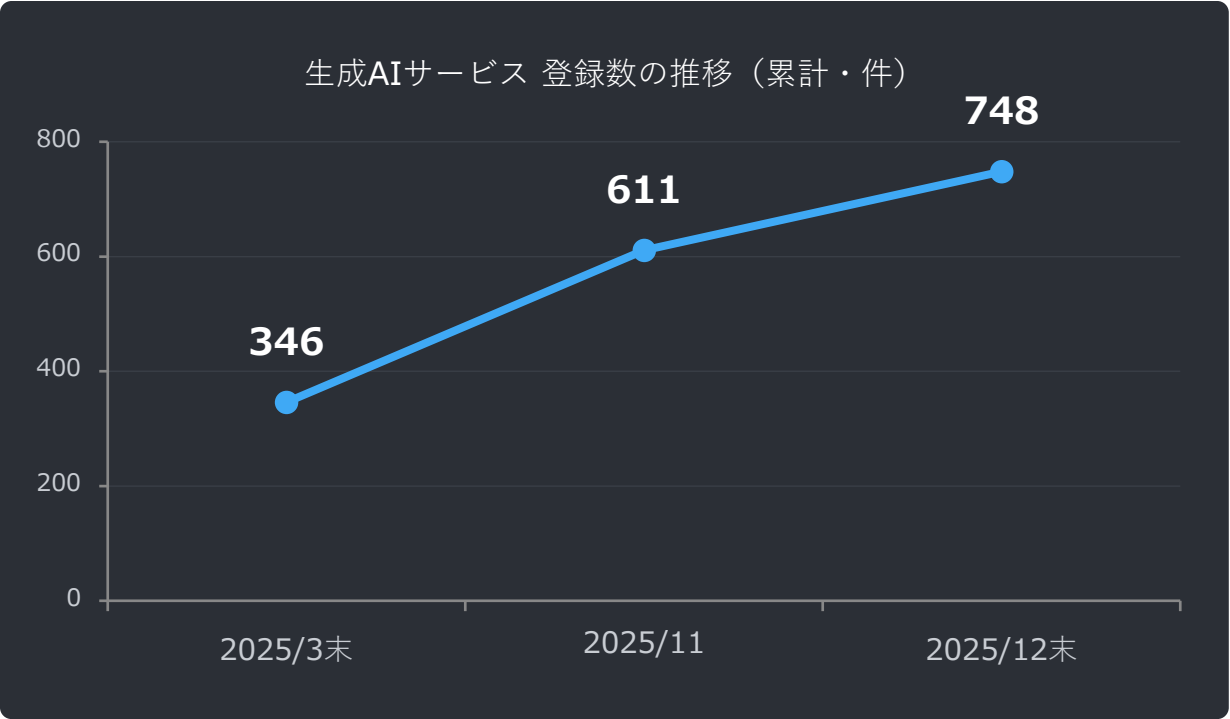
AIチップ(昇騰等)・算力1,590 EFLOPS・データ・5G/DC

約60% AI特許(件数・世界)

データ：工業情報化部／国家データ局／QuestMobile（AI原生アプリMAU・2025年）

大モデル登録数と競争格局

- 【網信弁】登録済み生成AIサービスは**2025年末で累計748件**（3月末346→加速）
- 二強+独立勢：**豆包(字節)**・**通義千問(アリババ)**・**元宝(テンセント)+DeepSeek・Kimi**。
Top10の6席が字節系・阿里系
- 競争軸は「モデル性能」から**チャネル・場面・定着**へ。価格も2025年に30～60%下落＝淘汰局面

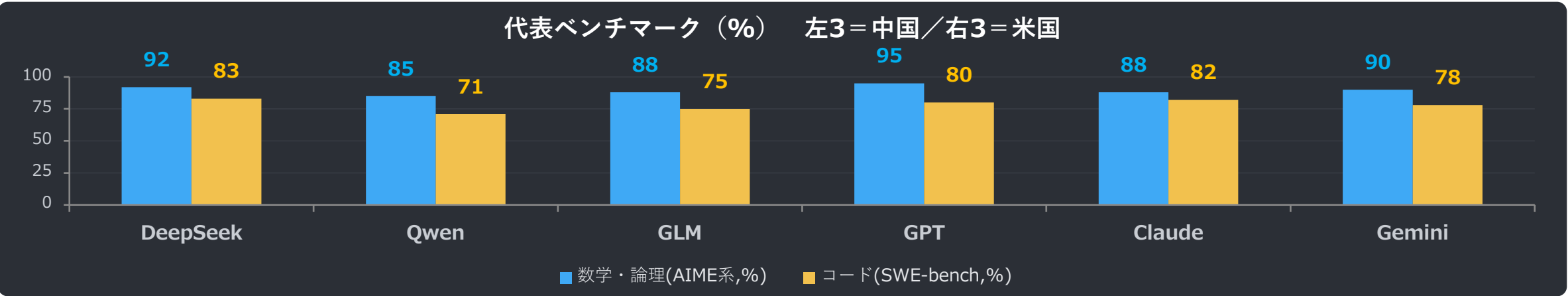


主要モデル	開発元	MAU/特徴
豆包	字節跳動	2.26億・首位
DeepSeek	独立	1.35億・低コスト/OSS
元宝	テンセント	混元+DeepSeek
通義千問	アリババ	多言語/企業/OSS
Kimi	月之暗面	超長文/エージェント

データ：国家網信弁（登録情報）／QuestMobile（AI原生アプリMAU・2025年末）

中国 vs 米国 主要モデルの性能と特徴

- 代表モデル：中国 = DeepSeek／通義千問(Qwen)／GLM、米国 = GPT／Claude／Gemini
- 学習データが特徴を決める：例) DeepSeekは数学・コードを大量学習＋強化学習→論理的思考・数学が得意
- 性能はトップ同士ではほぼ均衡。数・投資は米国／超低コスト・オープン是中国 ※数値は2026年前半の代表値



DeepSeek (中)

数学・コード＋強化学習→論理・数学／超低コスト

通義千問Qwen (中/阿里)

多言語・多サイズのOSS→汎用・企業導入・コード

GLM 智譜 (中)

汎用＋エージェント志向→ツール実行・長文処理

GPT (米/OpenAI)

広範な汎用データ→総合力最高峰・エコシステム

Claude (米/Anthropic)

コード・長文・安全性重視→コード品質・長文・日本語

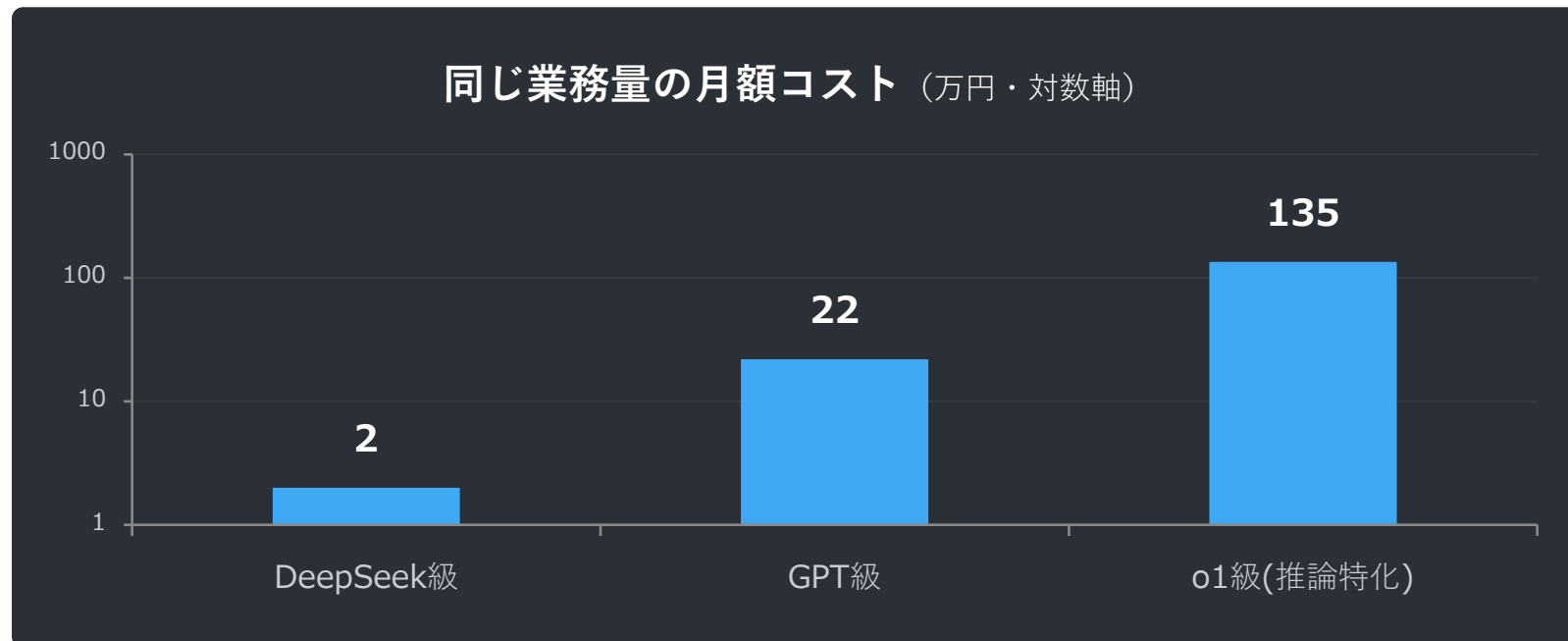
Gemini (米/Google)

マルチモーダル＋超長文脈→画像／動画・検索連携

データ：各社公表・第三者ベンチ (AIME/SWE-bench等・2026年前半の代表値)

推論コスト① 従量API — 実際の「業務コスト」で見る

- 【前提】月10万件のAIサポート＝入力3億＋出力7,000万トークン/月
- 同じ業務量の月額：DeepSeek級 約2万円／GPT級 約22万円（約12倍）／o1級 約135万円（約70倍）
- 推論コストが安い＝AIを気軽に試せて量産できる（GPT-3.5級は2022→2024で約1/280）
- ただし安さ一辺倒は転換：DeepSeekは2026年8月に時間帯別料金を導入し値上げ。単価は動く



同じ仕事でも月額は

2万～135万円

使うモデルで約70倍の差

※ 単価は変動

DeepSeekは2026年8月に時間帯別料金を導入し値上げ。本番は公式料金で最終確定

試算：トークン量×各社公式料金の概算（DeepSeek/OpenAI公式）。円換算は概算FX、人民元建て/ドル建てを区別

推論コスト② 自社サーバー運用（クローズド環境）

- QwenやDeepSeekは**オープンライセンス**。自社サーバーに置けば**社内データを外に出さずAIを使える**（完全オフライン可）
- 判断軸：**少量・試験ならAPI／大量・常時・機密なら自社運用**

小型（まず試す） 約100～150万円 Qwen32B / DeepSeek蒸留／GPU1枚のワークステーション
中型（全社利用） 約1,500～4,500万円 Qwen72B / 70B級／GPU4～8枚サーバー1台
満血（最高性能） 約5,000～6,500万円 DeepSeek-V3/R1 671B／8×H200級(VRAM約640GB)

	従量API	自社運用
初期費用	ゼロ	大
月額	従量（変動）	ほぼ固定
データ	外部に出る	外に出ない
単価改定	あり	なし
向く場面	少量・試験	大量・機密

データ：各モデル公式（ライセンス）／GPU・サーバーの2026年実勢価格 ※初期費用は概算。

AIに「聞く」から「任せる」へ — AIエージェント WorkBuddy



- ChatGPT = 聞くと答える「**賢い検索窓**」 / AIエージェント = 目的を渡すと自分で動く「**デジタルの部下**」
- 例えるなら **ChatGPT = カーナビ（道を教わる）** / **WorkBuddy = 自動運転（目的地を言えば連れて行く）**
- WorkBuddyは**調べる→作る→報告まで複数ステップを自分で実行**（人がやるのは最終確認だけ）
- 日本はまだ「**AIに聞く**」段階 / 中国企業はすでに「**AIに任せて業務を回す**」段階へ



例）「競合3社の価格を調べ、比較表にまとめ、報告メールの下書きまで」

従来



→ 検索・コピー・整形・作成をすべて人が実施（例：約45分）

WorkBuddy



※ 頼んで席を立ち、戻ったら表とメールが完成（人は最終確認のみ）

チャットとの「3つの違い」

- 1 単発の回答 → 複数ステップの実行
調べる・作る・送るを続けてやる
- 2 待ち受け → 自分で道具を使う
検索・ファイル・メールを自ら操作
- 3 指示待ち → 段取りを考える
「何を」だけ渡せば「どう」は任せる

（AI活用の整理）※Before/Afterは業務イメージの一例。所要時間は説明用の目安であり実測値ではない



AI応用の爆発的普及 (自動運転・デジタル決済・スマート工場等)

AI応用 5領域の全体マップ

- ①自動運転：夢ト快跑は累計1,700万単超で世界一（22都市・週25万単・100%全無人）
- ②デジタル決済：モバイル決済 年2,314億件・572兆元。決済が信用・与信データに直結
- ③スマート工場：スマート工場3万超で製造業8割をカバー、生産効率+22.3%
- ④医療：AI画像診断・大モデルが臨床へ／⑤養老：65歳以上2.2億人、銀髪経済元年(2024)
- 共通点 = データ×AIのループが回り、応用が爆発的に普及している

① 自動運転

累計1,700万単超

夢ト快跑・世界一
22都市/週25万単

② デジタル決済

年572兆元

モバイル決済
2,314億件→与信へ

③ スマート工場

3万超

製造業8割カバー
生産効率+22.3%

④ 医療

AI画像診断

臨床・大モデルが
実装拡大

⑤ 養老・介護

65歳以上2.2億人

銀髪経済元年
(2024・国務院26条)

自動運転① AIが変える開発と「成果」

- AIが認識→予測→計画を一体で担う「**端到端(One Model)**」へ。従来の二段式（認識+制御を人が規則化）を置換
- 仮想空間シミュレーション+世界モデルで**危険場면을大量生成し高速学習**（実車に依存しない）
- 成果：萝卜快跑の**事故率は人間ドライバーの約1/14**。L4対応の世界初大模型ADFM
- 規模：**累計1,700万単超で世界一**・22都市・週25万単・100%全無人。RT6はコスト約1/7

開発の作り方：二段式 → AIの一段式（端到端）

従来：二段式 認識 → 制御（間を人が書いた規則でつなぐ）



AI：一段式 **端到端(One Model)** センサー入力 → 走行軌跡を1つのAIが出力

+ **世界モデル/VLM**：仮想空間で危険場면을大量生成し高速学習（実車に依存しない）

人間の 1/14

萝卜快跑の実際の事故率（複雑路況）

1,700万単超

累計運行・世界一（22都市/週25万/全無人）

コスト 約1/7

第6世代車RT6（競合比）

データ：百度Apollo（ADFM・萝卜快跑）／中国新聞週刊（事故率1/14）

自動運転【参考】 世界を先行する「制度」ー L3解禁・責任・保険



- 【2025.12】 工信部が初の**L3型式許可**。長安・極狐が国内初のL3専用ナンバーで公道走行を開始
- 【2026.8】 道路交通安全法改正で「**自動運転作動中の事故は車メーカーが責任**」を初明記。ブラックボックス搭載を義務化
- 【強制国標 GB 44721-2026】 L3/L4対象、**2027年7月から強制執行**／【2026.3】 専用保険が北京で開始
- 運用制限：夜間22-6時の市街地L3・悪天候は作動禁止。接管予告後10秒で運転者へ

2025.12	L3量産解禁（初の型式許可・専用ナンバー）
2026.3	専用保険が北京で開始
2026.8	責任を車企に（道交法改正）+ 強制国標を發布
2027.7	強制国標 GB 44721 が強制執行

段階	作動中の事故責任
L2	運転者が全責（ハンズオフ禁止）
L3	車メーカーが主責（接管予告10秒で運転者）
L4	区域内で車メーカー全責・乗客は刑事責任なし

日本との差：日本はL3が一部・原則「運転者」責任。
中国は「**車メーカー責任**」で**量産解禁**+ 全L3以上にブラックボックス義務

データ：工業情報化部（L3型式許可・GB 44721-2026）／道路交通安全法改正草案(2026.8)／中国保険業協会（専用保険）ほか

自動運転【参考】 無人タクシーが「黒字化」 + 世界へ

- 【単車黒字化】 小馬智行が広州・深圳で達成。深圳は**1台 日均純収入338元・23回（補助金なし）**
- 【萝卜快跑】 2025Q4に全球340万回(+209%)・週30万回超、**累計2,300万回超・総走行3.5億km超・28都市**
- 【出海】 文遠知行は**13力国40都市超・8力国で運営免許**。トヨタ×小馬智行がbZ4X Robotaxiを量産（年内1,000台）
- ※留保：2026.3 武漢で100台超が通信障害で一斉停止→当局が新規免許を一時停止

企業	車隊/展開	特徴
萝卜快跑 (百度)	28都市・海外	累計2,300万回・週30万回
小馬智行 (Pony)	1,975→3,500台 20都市超	深圳で単車黒字・トヨタと量産
文遠知行 (WeRide)	L4 3,000台超 13力国40都市	UAEで常態運営・出海先行

単車黒字化（深圳） **338元/日・23回**
 補助金なし

萝卜快跑 2025Q4 **340万回(+209%)**

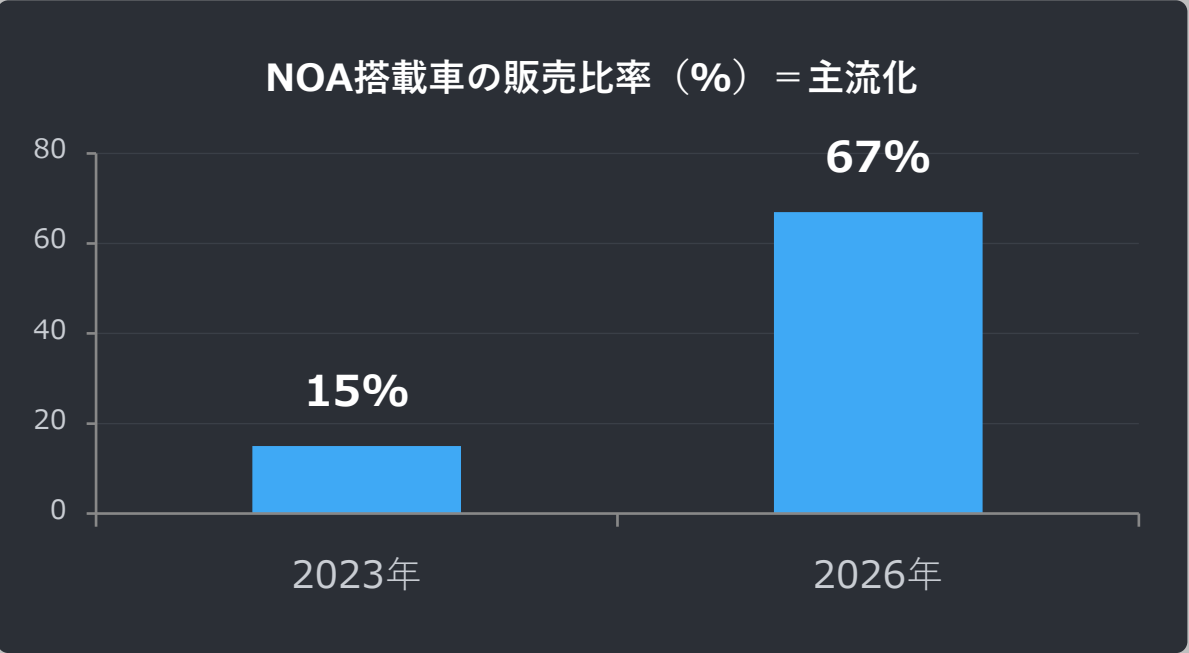
トヨタ×小馬智行 **bZ4X Robotaxiを量産**
 （年内1,000台）

※ 出海：中東・韓国・シンガポール、香港（右舵左行）
 でもテスト免許

データ：百度／小馬智行／文遠知行 各社決算・公表（2025Q4～2026）／国家発改委「中国智・惠世界2026」ほか

自動運転【参考】市販車の「智駕」が標準装備へ

- 都市NOA（市街地の自動走行支援）の搭載率は**2026年上半期20.9% = 新車の約5台に1台**。NOA搭載車の販売比率は2023年15%→**2026年67%**
- 華為ADSは市街地の**接管率98.2%（100kmで介入2回未満）**、交差点通過成功率65%→92%。330都市超をカバー
- 裏方 **Momentaが第三者供給で市占率60%超**。一方 **テスラFSDは中国で実測最下位**（現地データ制約）
- 価格破壊：比亞迪が15万元級、輕舟智航が8万元級へ。※実接管は17-30kmで「好用」への途上



システム	到達点・特徴
華為ADS	接管率98.2%・330都市超（最広）
小鵬XNGP	310都市超・無ナビ自走（激進派）
理想AD Max	最均衡・高速⇄城区が滑らか
テスラFSD	中国では実測最下位（現地制約）

価格破壊：比亞迪15万元級／輕舟8万元級（約160万円）へ。
 ※実接管17-30kmで「好用」への途上

データ：第一電動/中信証券（搭載率）／佐思汽研・P3 Group（接管率・順位）／各社公表

自動運転② AIが変える市場

- EV + 自動運転で車内は「運転する場」から「プライベート空間」へ変容、新たな商機が6分野で拡大
- ハードウェア（シート/内装/照明/音響）、エンタメ（後席ディスプレイ/AR-VR/ゲーム）
- ビジネス（モバイルワーク）、広告（パーソナライズ/車体外サイネージ）、サービス、車内OSも拡張
- 日系の素材・電子部品・コンテンツ・サービス業に参画余地、輸出と現地化の両軸で商機が拡大中

① 車内環境のハードウェア

シート（マッサージ・ゼログラビティ）
内装素材・照明・空調・香り
サウンドシステム・車載冷温庫
プライバシー・調光ガラス

日系機会：シート・素材・電子部品

② エンタメ・ゲーミング

後席大型ディスプレイ
ゲーム・カラオケ・ライブ配信
AR/VR体験・360度映像
TikTok・WeChat連携機能

日系機会：ディスプレイ・コンテンツ

③ ビジネス・モバイルワーク

移動オフィス化
車内ビデオ会議システム
移動商談ブース・キーボード
シェアオフィス付Robotaxi

日系機会：通信機器・OA関連

④ 広告・メディア

車内パーソナライズ広告
Robotaxi車体外サイネージ
「走るメディア」化
位置・属性・時間連動配信

日系機会：広告代理店・メディア

⑤ サービス・体験

車内デリバリー受取・決済
観光ガイド付Robotaxi
移動診療・移動健診車両
車内フィットネス・瞑想

日系機会：サービス業全般

⑥ プラットフォーム・OS

車載OS（HarmonyOS等）
車内AIアシスタント
車内コンテンツ課金
車車間ソーシャル機能

日系機会：SW・コンテンツ・AI

デジタル決済① 1回の買い物が生む「データ」と行き先

- 1回の決済が生むデータ：日時・場所・金額・品目・新規/リピート（同意の範囲で年齢・性別・地域・消費層）。現金なら1件も残らない
- 行き先①【店舗分析：生意参謀(Alibaba公式)】流入経路・転化ファネル・人群画像→勘でなくデータで経営
- 行き先②【信用】取引の流水そのものがその店の信用データに変わる

1 収集

決済のたびに取得

- ・取引：金額・頻度・時間・分類
- ・位置：GPS・LBS・常用地点
- ・端末：型番・OS・識別子
- ・行動：検索・閲覧・利用履歴
- ・権限：連絡先・カメラ等

2 蓄積・名寄せ

データ中台に集約

- ・ID統合：端末共起・ログイン
- ・複数アプリを一人に統合
- ・SNS・ミニプログラム接続
- ・バラバラのIDを同一人物へ

3 AI分析（タグ化）

ユーザー画像を生成

- ・事実：性別・年齢
- ・統計：30日消費・来店頻度
- ・モデル：RFM・LTV・信用
- ・予測：離反確率・次の購買

4 販売側へ提供

広告+経営分析

- ・広告：灯火・テンセント広告
- ・200+タグで精密ターゲ
- ・類似拡張(LAL)・自動出価
- ・経営：We分析・品牌数据
- ・店舗周辺分析・支付即会員

重要な境界線 — 商家に渡るのは「個人」ではなく「集団」

プラットフォーム内部（アント/テンセント）

個人単位で精密に把握・名寄せ・予測（①②③は自然人ひとりに紐づく）

商家の手元に渡るもの

- ①集計・去標識化された画像/セグメント
- ②マッチングは内部で実行し身元は非開示 ※自社会員のみ個人単位

个人信息保护法 = 匿名化は個人情報でない / 去標識化は可逆。自動化決策は「非個人化の選択肢」提供と「杀熟（差別価格）」防止が義務
= 「AIが全部を商家に売り渡す」のではなく「プラットフォームが個人情報握ったまま、集計値とマッチング能力を商品化」

デジタル決済② データが生む価値 — 店舗・経済へのリターン

- 【网商银行（アント）】 決済データを使う融資「310」 = 3分申請・1秒入金・人手ゼロ、累計6,800万超
- 露天商・個人店にも：1件平均7,615元・平均50日・独身の日は平均7回転。不良率約1%・運営コスト2.3元/件
- 小微企业は中国の事業体9割・就業8割・GDP6割。現金では見えなかった信用が可視化され資金が回る = 経済の底上げ

310

3分申請・1秒入金・人手ゼロ介入

6,800万超

累計サービス顧客（2024末）

不良率 約1%

運営コスト 2.3元/件（従来は約2,000元）

現金経済 → 決済経済で何が変わるか

現金経済

- ・ データが1件も残らない
- ・ 勘の経営から抜け出せない
- ・ 零細は信用を作れず融資×

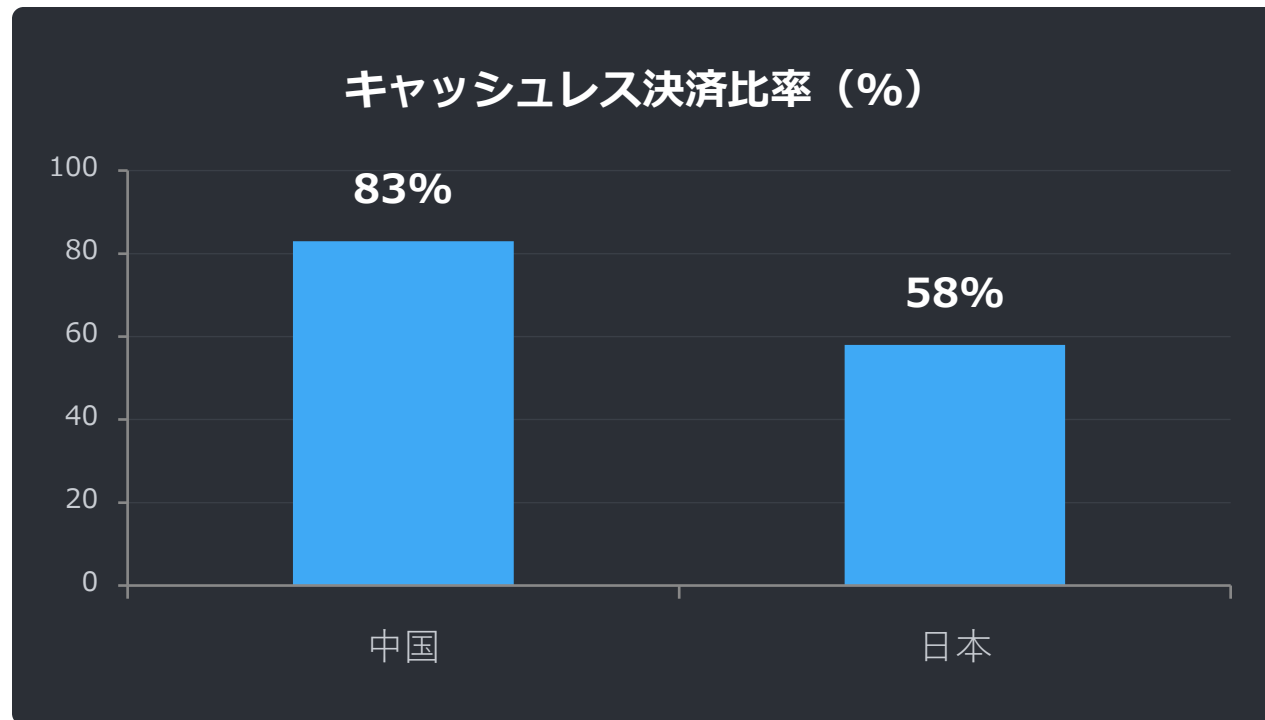
決済経済

- ・ 行動データが蓄積→精準経営
- ・ 取引流水が信用に変わる
- ・ 零細にも即時融資○ = 資金が回る

零細（事業体9割・就業8割・GDP6割）に資金が回る = 経済全体の底上げ

デジタル決済③ データ化の差が生む「イノベーション格差」

- 現金比率が高いほど**行動データが残らず、AIの学習素材が痩せる**→決済データ量の差 = AI応用の広がり
- 【経産省・2025】日本のキャッシュレス比率は**国内指標58.0%**（2019年約27%から急上昇）。国際比較では中国**約83%**になお差
- 日本の活路：**量では負けても「質・正確さ・信頼」で差別化**（→最後の勝機章へ）



データ量 → AI応用の広がり

決済が多いほど行動データが増え、与信・販促・在庫最適化などAIの応用が広がる（好循環）

日本の勝機

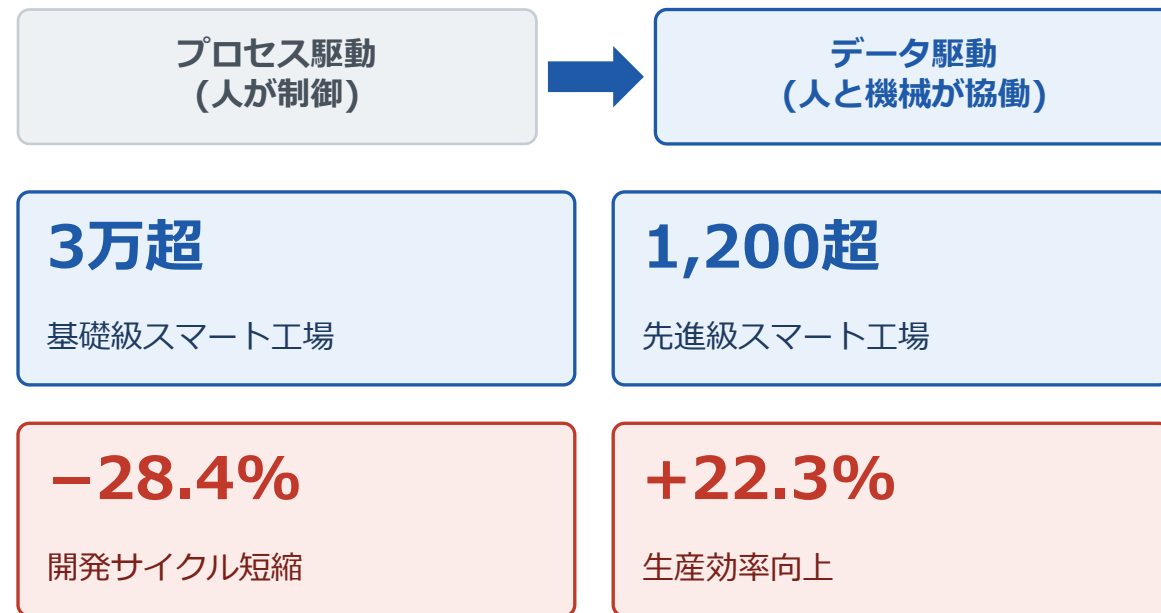
量では中国に及ばずとも、データの**「質・正確さ・信頼」**で差別化できる余地は十分

データ：日本＝経済産業省 中国＝約83%（国際比較・キャッシュレス推進協議会等）

スマート工場① 設計段階からの「完全スマート化」

- 【工信部】基礎級スマート工場**3万超**・先進級1,200超で**製造業の8割超をカバー**（開発-28.4%/効率+22.3%）
- 後付けIoTではなく**設計・レイアウト段階から丸ごと作り込む**。小米・BYDはデジタルツインを徹底活用
- 実例：小米「黒灯工厂」= **24時間無人・毎分60台（1秒に1台）・年産百万台**（北京市発改委）

プロセス駆動 → データ駆動への転換



実例：小米「黒灯工厂」（ダークファクトリー）

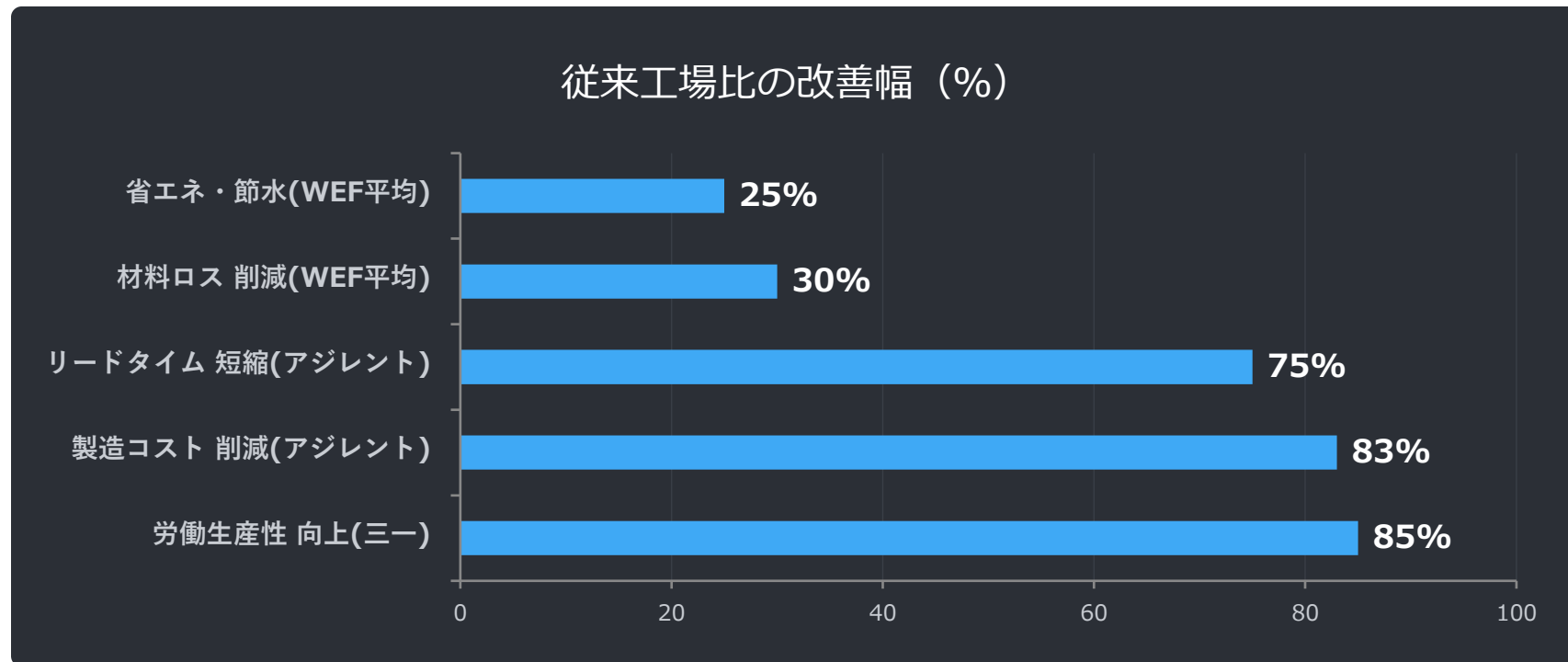
毎分60台 = **1秒に1台**

- ・ 24時間 無人稼働（人のいない生産）
- ・ 年産 百万台（高端スマホ）
- ・ 投資6億元/設備の9割超が自社開発
- ・ 設計段階からデジタルツインで最適化
- ・ 工場全体が一つの巨大なAIとして稼働

データ：工業情報化部（スマート工場統計）/北京市発展改革委員会（小米智能工厂：毎分60台・24時間無人・年産百万台）

スマート工場② 従来工場との「速度・コスト」比較

- 【WEF 灯塔工場白書2025】 灯塔工場 = ライトハウス工場は平均で**材料ロス-30%・エネ/水-25%**
- 事例：アジレント（製造コスト**-83%**・リードタイム**-75%**）／三一重工（労働生産性**+85%**）／海爾（効率・コスト+30%超）
- 速度もコストも桁で変わる。日本の「**擦り合わせ品質**」と中国の「**設計段階のデータ化**」は補完しうる



速度もコストも
「桁」で変わる

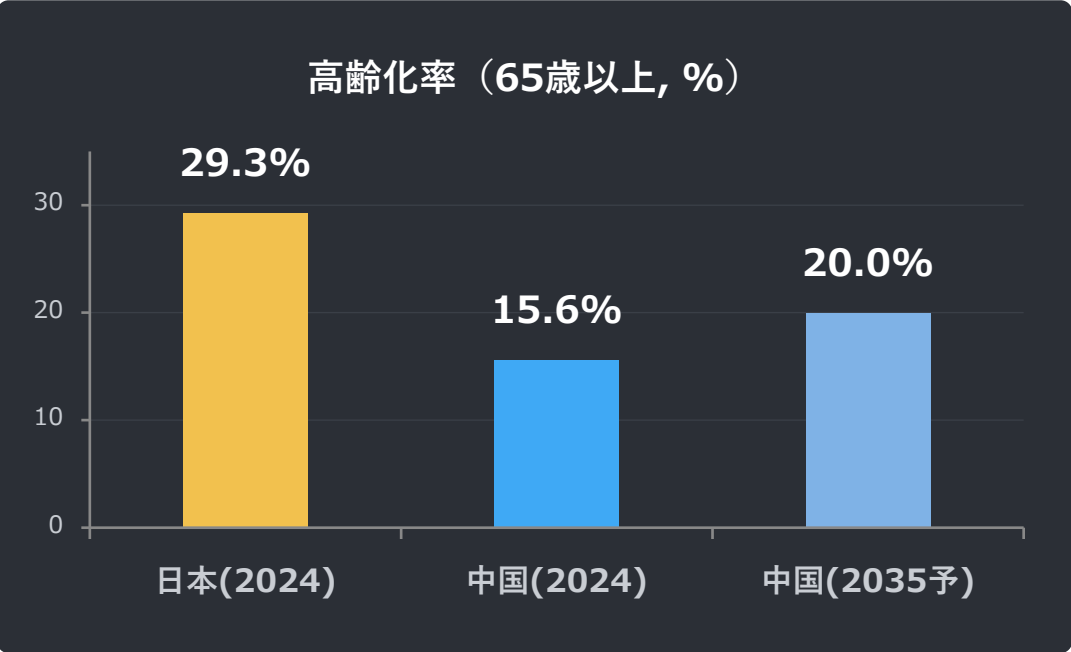
日本の強み = 擦り合わせの品質
中国の強み = 設計段階からの
データ化

→ 補完しうる

データ：世界経済フォーラム「Global Lighthouse Network」白書2025／各社公表値

医療・養老AIの実装加速 — 「成果」で見る

- 【国家統計局】65歳以上**2.2億人(15.6%)**→**2035年30%超（60歳以上）** 2024年＝銀髪経済元年（国務院26条）
- 導入：三級病院の74%がAI画像診断、AI医療機器200款超、**AI診断を公的医療保険に世界初で組み込み(2025)**
- 成果①診断時間短縮：**大動脈解離15-20分→3分／胸部CT読影 300枚を10秒**
- 成果②効率・精度：**画像診断効率+30%・待ち時間-42%・放射科医の作業-30～50%・肺結節検出率90%超**



現場で出ている「成果」

- ・ 大動脈解離の画像診断 **15-20分→3分**
- ・ 胸部CT読影 **300枚を10秒**／画像診断効率 **+30%**
- ・ 患者待ち時間 **-42%**／放射科医の作業 **-30～50%**
- ・ 肺結節の検出率 **90%超**

共通の実験場：超高齢社会を先に迎えた日本の現場知×中国の実装スピードは掛け合わせられる

データ：新華社(2026.3・成果値)／国家統計局・民政部／総務省(日本29.3%)／中華医学会放射学分会(74%)／NMPA(200款超)／国家医保局(医保納入2025)

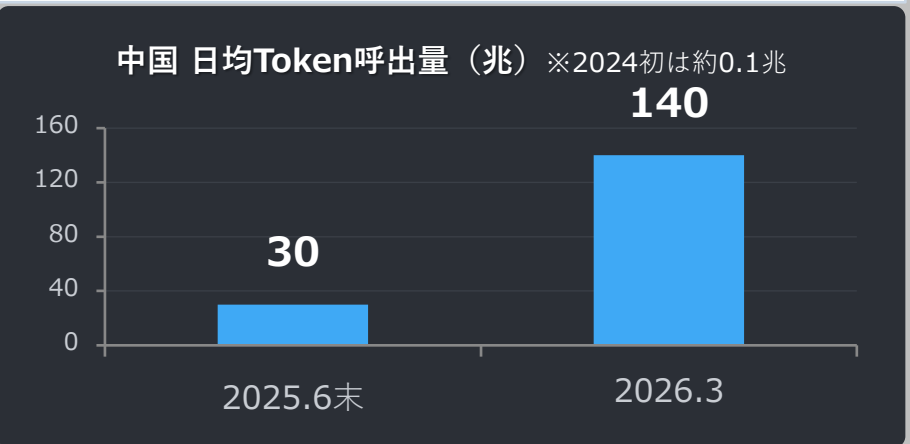
【参考】「Token経済」知性が“サービス”になる時代

- 計量単位の誕生が経済秩序を書き換える：ブッシェル→バレル→kWh→ビット、そして**Token**
- Tokenの本質 = 物質・エネルギー・情報ではなく「**機械が知的課題を処理した産出**」を計る初の単位 = 知性 as a Service
- すでに稼働：OpenAI 毎分60億→150億token／**中国 日均 約1,000億→140兆（約1,400倍）**／世界AIインフラ投資 3,180億ドル(2025)
- 逆説：単価は暴落（GPT-4相当 60ドル→1ドル未満/百万token）**総支出は暴騰＝ジェヴォンズのパラドックス**

計量単位の系譜 — 物理量を計る4単位、そして“知的産出”のToken



かつて知性を買うとは、**人・工数・ポスト**を買うことだった。
いま買うのは **Token = タスク・成果・休まないデジタルワーカー**。
蒸気機関が**肉体労働**をエネルギー化したように、LLMは **認知労働を“産出”化する**。



逆説（ジェヴォンズのパラドックス）
単価↓（60ドル→1ドル未満/百万token）
× 総量↑ → **総支出はむしろ暴騰**

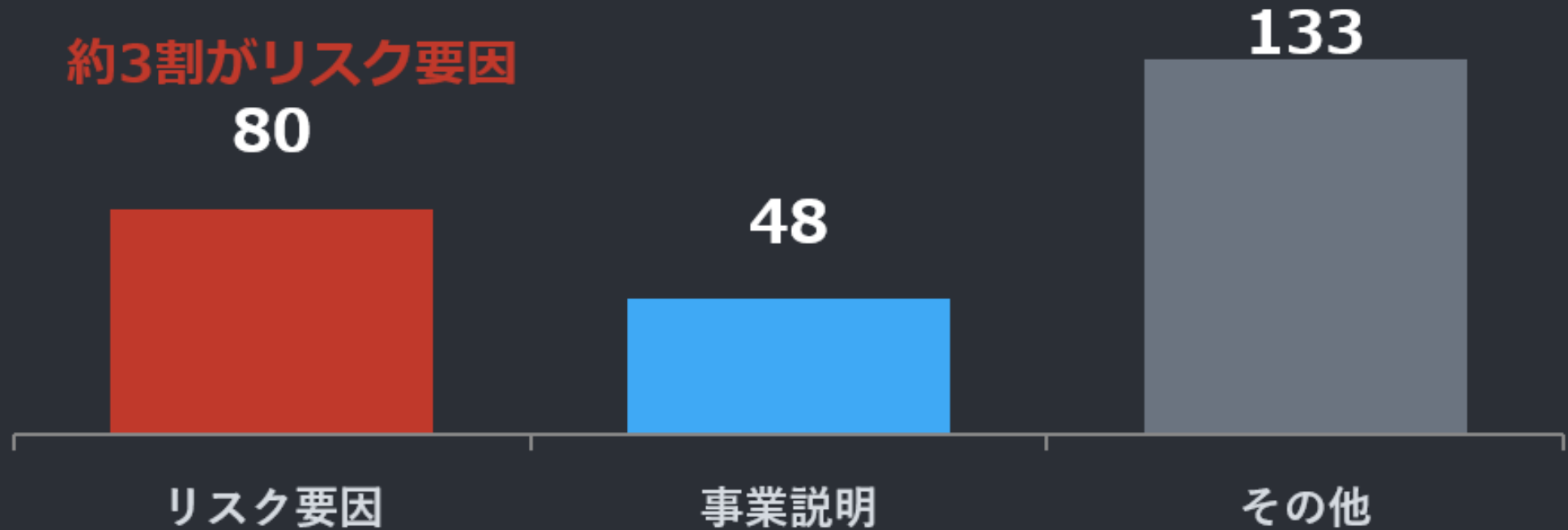
データ：国家数据局・新華社（中国 日均Token：2025.6末30兆／2026.3 140兆）／OpenAI DevDay 2025（毎分60億超）／IDC（2025年AIインフラ投資3,180億ドル）
／各社API料金・Stanford AI Index（単価） ※単価は能力等価の比較。「推論が約2/3」は別推計

【参考】AIの“深層”ー 開発者自身が投資家に告げた“存亡リスク”



Anthropic IPO目論見書（全261頁）の構成（頁数）

約3割がリスク要因



出典：Anthropic IPO目論見書（S-1）に基づくReuters報道および各社CNBC/Bloomberg/CNN/TechCrunch/Forbes, 2026.9.28-29)



データ共創の勝機

比較優位マップ：「ハード」から「データ・信頼」へ

- 価値の重心が「ハード（規模・機能）」から「データ・信頼（質・現場・実測）」へシフト
- 中国＝規模・速度・データ量・超低コストAI／米国＝先端モデル・巨額投資・AI用DC集積
- 日本＝**現場の品質・実測データの正確さ・長期の信頼・高信頼インフラ/素材**（＝勝てる軸）
- 日本は規模で追う土俵にいない → **規模競争ではなく「面・現場・信頼」で入る**

中国

規模・速度・データ量

- ・普及速度・実装スピード
- ・巨大なデータ量
- ・国家主導の一体設計
- ・超低コストのAI

米国

先端・投資

- ・最先端モデル・研究
- ・巨額投資(\$2,860億)
- ・高インパクト特許
- ・AI用DCが世界最大

日本

経験値データ・管理方式

- ・現場の品質・擦り合わせ
- ・実測データの正確さ
- ・匠の経験値 暗黙知
- ・高信頼インフラ・素材

日本の武器＝質の高い実測データ × 現場力 × 信頼 → データ共創で勝つ

（戦略整理）出典：本編セクション1～4のデータ／Stanford HAI「AI Index 2026」（米国の投資・DC集積）

具体的参入領域：データ共創とサービス収益化

- カギは「データ共創」。日本が出せる/取れる質の高いデータを、中国の巨大な実装市場に掛け合わせる
- モノ売り（一度きり）ではなくサービス・ライセンスで継続課金へ
- 単独で規模を競えば負ける。共創すれば「質」で勝てる

領域	日本が出せる/取れるデータ	データ共創・収益化のシナリオ
製造現場	品質の実測データ・不良の原因データ・匠の暗黙知	中国のスマート工場に「品質AI」を提供 → 歩留・良品率の改善をサービス課金
医療・機器	医療機器の実測データ・臨床の検証データ	診断AIの精度検証・共同開発 → SaaS/ライセンスで継続収益
部材・素材	物性・耐久・信頼性の実測データ	材料×AIで新素材探索を加速 → データ提供＋成果ロイヤリティ
養老・介護	介護現場のノウハウ・センサー/行動データ	介護AIの現場実装ノウハウを提供 → 運用・保守サービスで収益化

（戦略整理）※参入シナリオは一例。個別領域は市場性・規制・パートナー要件を踏まえ精査要。

まとめ — 「進出か撤退か」ではなく「どう関与するか」の時代へ



デリスキング（リスク低減）が日本政府の公式立場。完全離脱より戦略的再設計が現実解

撤退を支持する事実

- 中国進出日系企業数：1.3万社（ピーク比▲9.4%）
- 日系企業が相次いで工場閉鎖・撤退
- 反スパイ法改正（2023年）
- 外資対中直接投資：2023年に▲80%（30年ぶり低水準）
- 日本車の中国シェア：20%→12%（2020→2024年）

関与継続を支持する事実

- 日本の対中貿易依存度：20%（最大貿易相手国）
- 生産拠点・販売拠点として「中国首位」変わらず
- 中国EV 1% = 日本EV市場全体以上の部品需要
- ロボット：2030年アクチュエータ需要3,500万個
- 電気代3倍・5G基地局30倍の研究開発インフラ格差

見るべき事業機会

「見るべきは脅威の列挙ではなく、どの国家目標に日本の強みがかみ合うか」

- 中国の実行ベース外資導入額は16年連続で7000億元（2025年末）超。
特にECサービス業、医療機器設備・機械製造業、宇宙航空機器・設備製造業など
- 中国に新設された外資系企業は前年比19.1%増の7万392社。
- 中国の超大規模市場・サービス業の発展・イノベーションエコシステム・農業や養老産業

Shanghai Huazhong Investment Consulting Co., Ltd

華鐘新領域



中国ビジネスの 「困った」を 一気に解決。

財務・税務・ERPシステム、
すべてワンストップでお任せください。

まずは無料相談→



shoichi.kobayashi@shcs.com.cn



選ばれる3つの理由

01

ワンストップ財務コンサル
会計上の問題を一気に解決

日中両国の会計を熟知した
専門家が記帳から税務まで対応

02

用友システム全国版代理店
日系唯一 10年以上の経験

中国ERP最大手を全国どこでも
導入・開発サポート

03

WeChat即時回答
現場の方の業務効率UP

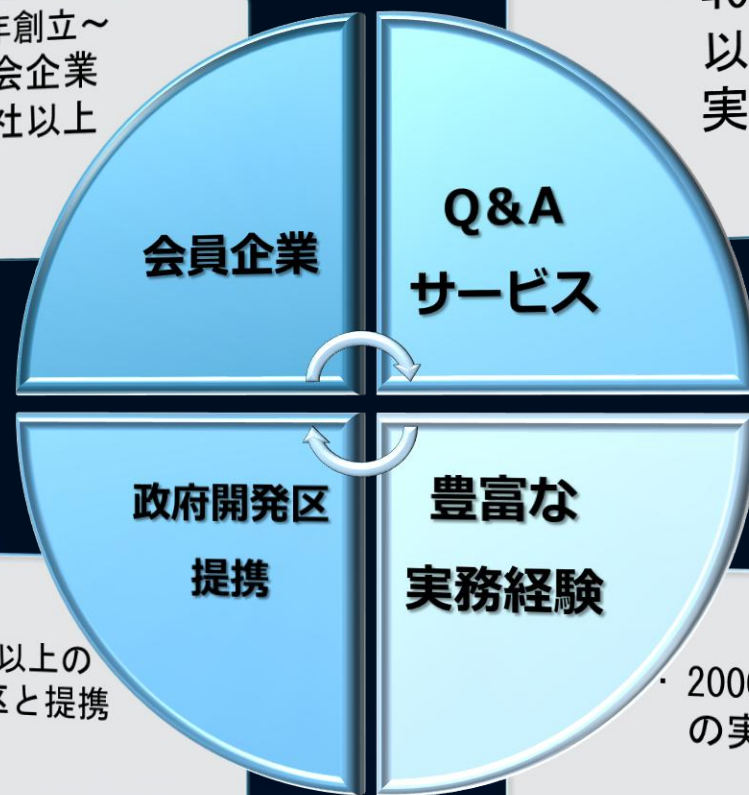
問題をWeChatグループでお問合せ
会計・ITの問題を一気に解決



華鐘Agent法律検索（無料β版）
※ WeChatからのみご利用になれます

・ 1994年創立～
ご入会企業
2000社以上

- ・ 40000件以上の実績



- ・ 150区以上の開発区と提携

- ・ 20000件以上の実務経験

華鐘通信
公開Q&A

会員企業
個別Q&A

政府Webサイト
華鐘公式サイト

[illegible]

日本品質管理学会 JAPANESE ASSOCIATION OF QUALITY MANAGEMENT
〒100-8355 東京都千代田区千代田 1-10-10 日本橋三井ビルディング
TEL: 03-6461-7100 FAX: 03-6461-7101 E-MAIL: info@jaqms.jp

食食企業様の Q&A サンプル

Q1000 様御用
○○○○ 様

上海品質管理学会 JAPANESE ASSOCIATION OF QUALITY MANAGEMENT

承認	確認	作成
○○○○	○○○○	○○○○

駐在員 遠藤 会、個人事務、兼任にて(返答)

貴社より送って頂けたことと並び感謝いたします。早速お返しの返信をいたします。早くお話しし上
げたいところですが、お返しの件は後述のとおりです。

● 4月10日の駐在員/親族関係者(約計3名、4月10日、お電話にてお話しした内容)としましては、
お話ししたとおり、下記の通りお話しした内容です。

● 4月10日のお話しした内容(お話しした内容)は、

0. 駐在員の遠藤会に対する個人事務と兼任について

● 駐在員としての4月10日のお話しした、お話しした内容です。

● 4月10日のお話しした内容が、4月10日のお話しした内容です。お話しした内容です。お話しした
内容です。お話しした内容です。

● 駐在員としての4月10日のお話しした内容です。お話しした内容です。お話しした内容です。
お話しした内容です。

A. 以下を御用

駐在員に対する御用

● 駐在員としての4月10日のお話しした内容です。お話しした内容です。お話しした内容です。
お話しした内容です。

● 駐在員としての4月10日のお話しした内容です。お話しした内容です。お話しした内容です。
お話しした内容です。

● 駐在員としての4月10日のお話しした内容です。お話しした内容です。お話しした内容です。
お話しした内容です。

● 駐在員としての4月10日のお話しした内容です。お話しした内容です。お話しした内容です。
お話しした内容です。

● 駐在員としての4月10日のお話しした内容です。お話しした内容です。お話しした内容です。
お話しした内容です。

● 駐在員としての4月10日のお話しした内容です。お話しした内容です。お話しした内容です。
お話しした内容です。

● 駐在員としての4月10日のお話しした内容です。お話しした内容です。お話しした内容です。
お話しした内容です。

国家法律法规数据库

弊社 華鐘コンサルタントグループについて



信頼企業の証である資格類

「上海市專業サービス貿易重点単位」
(コンサル類)
「渉外調査許可証(甲種)」※
「信用コンサルタント会社証」
「ISO9001、ISO14001認証」など

※外国企業からの依頼に対し
全国全産業の調査を行える資格
を外資で最初に取り得しました

豊富な経験値と実績数

会員登録頂いたのべ企業数 2000社以上
ご質問にお答えした総数 35,000件以上
様々なプロジェクト実施数 20000件以上
政府開発区などとの提携数 150以上



高い能力を持つスタッフ

- 公認会計士など関連資格保有者20名
- 日本簿記資格保有者 4名
- 日本語1級 25名
- 税理士資格保有者 2名
- 上海市登録コンサルタント 15名 他※

※弊社へ会員登録頂いたお客様のみに
サービスを提供しております。
ご入会後は回数無制限のQ&Aや
毎日発行のメルマガなど、弊社の
基本サービスをご利用頂けます。

歴史ある総合コンサル会社

市場調査・企業調査・DD・商標登録
個人のビザ取得、会社設立・移転・清算、
工場用地取得・環境コンサル・認可取得
会計・税務・財務・個人所得税管理
労務管理・人員再編・法務、IT関連

※イギリス特許管理会計士
弁護士資格博士・博士課程修了者
評価に関わるエンジニア資格など
資格保有者の人数はのべ150人以上
にのぼります。

弊社 華鐘コンサルタントグループについて

☐ 【本社】大阪 株式会社華鐘コンサルティング

住所 〒541-0045 大阪府中央区道修町二丁目2番11号ベルロード道修町ビル4階

電話番号 +81-(0)6-6232-0775 : 担当者 陳庚 (日本語可)

FAX番号 +81-(0)6-6232-0776 Emailアドレス osaka.jhcs@shcs.co.jp

☐ 上海本部

住所 〒200041 上海市静安区石门一路288号 興業太古汇1棟 20F 2080-81室

電話番号 +86-(0)21-5117-5888 : 担当者 張曉玲 (日本語可)

Emailアドレス shcs@shcs.com.cn

Homepageアドレス <http://www.shcs.com.cn>

☐ 広州分公司

住所 〒510620 広州市林和西路9号耀中広場B座1209室

電話番号 +86-(0)20-3801-1800 : 担当者 許進 (日本語可)

FAX番号 +86-(0)20-3801-1810 Emailアドレス xujin@shcs.com.cn

☐ 蘇州分公司

住所 〒215028 蘇州工業園区旺墩路188号建屋大厦1203室

電話番号 +86-(0)512-6809-4510 : 担当者 李金姫 (日本語可)

Emailアドレス lijinji@shcs.com.cn

企業微信(WeCom)使用開始のお知らせ

お客様への情報提供をより便利にするため

企業微信(WeCom )を使用いたします。

- 中国ビジネス・中国生活グループチャットでの関連情報発信
- 会員企業の方と弊社担当者の個別連絡

① 華鐘企業アカウント

過去にグループチャットで配信した各種情報を、ジャンルごとにご覧いただけるようになります（記事は順次アップロードします）

② グループチャット[群聊]

- ・ 既存の [微信グループ] を [企業微信グループ] に移行
- ・ 人数にかかわらず、右のQRコードスキャンで加入可



ご不明点等については、弊社担当者か、メールで shcs@shcs.com.cn までお問合せください。